

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第4巻

目次

第31章	聖なるものから最も遠い存在に愛を注ぎ、 生き甲斐 ^{がい} と言う命を付与する	3
1	バーバネルが語り始める	3
2	シルバーバーチを吟味 ^{ぎんみ} する ～世界中の言語を、善想念を込めて創造する	4
3	「靈訓」と「虹の掛け橋」を修正する	7
4	イエスを吟味する ～ウイルスに愛を注ぐ	14
5	モーゼを吟味する ～公案の唯一の答えに辿り着く	17
第32章	愛を受け取った霊体は靈格が向上する	24
1	マホメットを吟味する ～罪を背負い合う光景の存在を知る	24
2	いじめ問題を考える ～応急的な次善策	28
3	「靈訓」と「虹の掛け橋」の相違点を観る	39
第33章	すべてのものに愛の温 ^{ぬく} もりを注ぎ続ける	47
1	相違点の存在理由を語る	47
2	極限的苦境を乗り越える方法	50
3	再生に関わる摂理の働き	56
4	無限角形	58

5 公案の接し方.....	61
---------------	----

第 34 章 すべての霊体に第一霊として

地上に降誕するときが来る.....	64
1 「虹の掛け橋」が吟味されるときが成就点へのスタート...	64
2 釈尊を吟味する	
～迦葉 ^{かしよう} を侮辱 ^{ぶじよく} できない.....	70
3 愛の光を浴び霊格が向上し観える世界が一変する.....	71
4 銀河霊レベルの霊力を取り戻されてからの世界.....	72
5 成就点を迎える.....	74
6 大霊となってからの世界.....	75

第 35 章 吟味すべき対象は「虹の掛け橋」であって

彼を吟味してはならない.....	82
1 第一真理・摂理と完全死.....	82
2 「虹の掛け橋」が第一霊たちに引き継がれる理由.....	87

第 36 章 「^{シエシエ}謝謝」は悪想念を拭き取る

ウエットティッシュ.....	91
1 喫緊 ^{きっきん} の課題の解決方法.....	91
2 「男尊女卑 ^{だんそんじょひ} 」は反真理的主義.....	96

第 37 章 私に思い残すことはありません.....

1 人類の未来は人類の自由意志.....	101
2 「完全死」したものたちが宇宙の ^{いしずえ} 礎となる.....	101
3 「完全無」の状態から生み出す方法が「白金律」.....	106
4 質問を受け付ける E メールアドレス.....	109

第 31 章

聖なるものから最も遠い存在に愛を注ぎ、
生き甲斐^{がい}と言う命を付与する

1 バーバネルが語り始める

バーバネル ここからは「霊訓」の地上霊媒であった私が語ってまいります、デリケートな問題を抱えている箇所については、重複文章が連なることをお断りします。

私は霊界に戻り、彼と直接対話できるまで霊格を向上させることに努めた結果、成就してこのように彼を通して皆様に語り掛けることが可能になりました。

「第 30 章 2 天」の中で、我々銀河霊が大霊と認識していたネイムが「彼は私の 10 億倍の霊力を持っているのです」と語っていますが、私には彼とネイムの霊格は同じレベルにしか認識できないことを正直に申しあげます。

しかし、彼が銀河霊たちには「大地^{だい ち れい}霊」、ネイムが語っているところの宇宙霊（我々の認識では大霊）たちには「第一^{だいいちれい}霊」と呼ばれていることが、この宇宙に存在するあらゆるものに名前を付けたがるネイムの性格と英知を象徴している^{ごと}如く、両名が非常に良く似た発音で構成された呼び名であることと、ネイムのスペル「name」にアルファベットの最初の文字である(a)を挿入した「nam(a)e」をローマ字読みすると「名前」になる人知を越えたお茶目さを考慮すると、このこと（下線部）は事実なのかも知れません。

だとすれば、私がこうして彼と対話ができ、かつ彼とネイムの霊格が同じレベルにしか認識できないことから推察すると、彼が本来の霊

格をネイムレベルに落として五霊を含め我々銀河霊の前に姿を現してくれているが故に、彼を認識し語り合うことが可能になっていると言うことになります。

そして、シルバーバーチも語っているように、ネイムは我々銀河霊が認識できる霊界と物質界である宇宙の創造主の 1 人です（もう 1 人が彼です）。ネイムによれば、このような宇宙霊・大霊が 1000 億居られ、彼はその 10 億倍の霊力を持っていると言うのですから、彼は大霊の中の第一霊なのかも知れません。

ところで「第 3 巻」では、五霊が語っていますが、この様子を直に^{じか}観ていた私とは異なり皆様からは見ることはできませんから、皆様は五霊が本物であるかどうかについては、語っている内容から判断するしかありません。つまり五霊の霊格レベルに^{ふさわ}相応しい深遠な教えが語られているかどうかを、銀河霊レベルの^{れいげん}霊眼で^{ぎんみ}吟味する必要があると言うことです。

そこで、この吟味の過程で、私が彼と対話しながら学び、そして実践を通して霊格を向上させてきた結果として身につけた霊眼をもって、「虹の掛け橋」に書かれている字面^{じづら}の内奥^{ないおう}に存在する深遠な神仏の教えと「霊訓」の素晴らしさと修正点等を織り交ぜながら語ってまいります。

2 シルバーバーチを^{ぎんみ}吟味する

～世界中の言語を、善想念を込めて創造する

では、はじめにシルバーバーチが語っている内容から吟味します。

「第 23 章 2 人で 1 つの天」の中で『シルバーバーチの名前の意味が「ばからしー」と言っているのけることを大霊から許されている霊はシルバーバーチ本人しか存在しないのです』と語っている箇所がござい

ます。これは明らかに証拠の 1 つです。

でも、これだけでは信じられない方もいると思いますが「靈訓」を読み込んでゆくと次第にシルバーバーチの個性を認識できるようになります。

この視点に立ったとき、シルバーバーチと言う名前の意味が「ばかしー」と言うのは最もシルバーバーチらしさ・個性を反映している名前であると感じるのです。と同時に、私自身がシルバーバーチであったならばと仮定したとき、名前を反対から読ませる等と言う機転と、これ以上適した名前を思い浮ぶことはできないと申しあげます。

また、同章でシルバーバーチは「ネームは存在するあらゆるものに名前を付けたがる方なのです」と言い、一方で「シルバーバーチと言う名前に私のメッセージを吹き込んできたのです。(つまり、自分で名前を付けた)」と言っています。これらを矛盾なく説明するとすれば、シルバーバーチ自身がこの名前を考え、ネームが認めたと解釈する他ありません。とすると、シルバーバーチは、日本語と英語を創造する作業に携わった 1 人と言えるのです。

このことと「虹の掛け橋」の素晴らしさの 1 つである、神仏から最も遠い存在であるものたちを素材として神仏の教えが説かれている点を観抜くほどであることを考え併せると、このような者は偉大な靈であることが^{うかが}窺えます。

以上のことを総合的に考えると、五靈の 1 人であるほどの靈格者と認めざるを得ません。

私は、今皆様に日本語で語っていますが、誰からも日本語を教えてもらっていませんし、今では英語や日本語以外の世界中の言語を自由に話すことも文字を理解することもできるのです。

これは銀河靈以上の靈格を持った者の共通の能力なのです。ちなみ

に銀河霊界では思念と言語の両方を使用して会話します。そこで使用される言語は、地上のとは比較にならないほど進化したものです。

無窮^{むきゆう}の過去へ記憶^{たど}を辿ってゆくと、私も皆様も含めた銀河霊たちと、そして彼とネイムと共同で、世界中の言語を、愛と知恵と勇気と希望からなる善想念を込めて創造して来たことを思い出したのです。

先ほど申しあげたとおり、勿論^{もちろん}シルバーバーチもこれに加わっているのです。しかも「第18章 1 宇宙の中心に位置する神仏はいるの？」の箇所で書かれているように銀河霊たちによる働きが99%を占め、彼とネイムが関わっているのは1%程度のわずかな部分だけなのです。

ですから、世界中で話されている言語の創造者は「我々銀河霊」と言っても過言ではありません。

「虹の掛け橋」は日本語で書かれており、そして外国語に^{ほんやく}翻訳することが困難な箇所が多数観受けられます。ですから、これを地上時代に読み熟^{こな}そうとしたら、日本人以外の方は日本語を学ばなければなりません。漢字は実に難しく大学受験に出題されるほどですから、習得するには長い年月を要します。

ここで私の考えをお話しするならば「虹の掛け橋」を読むために長い時間を掛けて日本語を学ぶ必要はありません。(勿論皆様には自由意志がありますから、日本語に^{から}絡む公案を解きたいとか、日本の女性(男性)と付き合いたいから学びたい方は学べば良いでしょう)。

なぜなら「虹の掛け橋」のエッセンスである赤金律から紫金律を通して白金律を理解し実践しさえすれば、すでに銀河霊である皆様は誰一人例外なく大霊の霊格に到達できるからです。

それに、黄金律はイエスが語っているように「愛と知恵と勇気からなる善想念で心を満たし考え行動すること」で、赤金律は「第1巻 はじめに」の箇所で書かれている「世のため人のために積んできた徳分は、自分のために使うのではなく、最後まで世のため人のために使う

こと（自分のためには使えない、徳分とはそういうもの）」です。

この延長線上には「家族で積んできた徳分は、自分たちのために使うのではなく周りのものを幸せにするために使うこと」そして「A 国民で積んできた徳分・福德（蓄えた財産・資源と確保した領土等）は、自分たちのために使うのではなく、周り（世界中）の民を幸せにするために、人類が得た福德は人類以外の生命体を幸せにするために、地球上の全生命体で得た福德は他の惑星の生命体を幸せにするために、銀河系全体で得た福德は他の銀河系の生命体を幸せにするために使うこと」です。宇宙に存在する全生命体がこのような心の紋様になったならば、文明が発達した惑星（宇宙人）同士の戦争は生じません。

橙金律は「第 11 章 2 道半ば」に書かれている「1000^り里の道は 1000 里辿り着いて道半ば」です。

この延長線上に存在する「心の修行は大霊・創造主の霊格に到達して道半ばであると言う境地になること」で、このような教えのエッセンスに関しては世界中の言語に翻訳可能なのです。

なお、赤金律と橙金律の実践は黄金律の境地に通じ、黄金律の実践は赤金律と橙金律の境地に通じていますから、これらの境地はすべて等価です。

貴重な時間を日本語の勉強に費やすよりも、むしろ霊格向上の実践に使うべきです。霊界に戻れば、皆様は好きなだけ「虹の掛け橋」を読むことも公案にチャレンジすることもできますし、地上の「虹の掛け橋」のように誤字や脱字もなく幼稚な文章は霊界の偉大な作家たちによって修正されて、より進化した文言で書かれ内容も充実し、かつ芸術家たちにより映像も挿入されているのです。

3 「霊訓」と「虹の掛け橋」を修正する

ところで、シルバーバーチが「虹の掛け橋」の中で語っているように「靈訓」は銀河靈であるシルバーバーチから太陽的恒星靈を経て、さらに地球的惑星靈を経て・・・地上の靈媒である私を通して人類に伝えられたもので、このため「靈訓」は次第に低い靈格の靈媒たちの思念によって引き下げられた内容になってしまったようです。言い換えるならば「靈訓」にはシルバーバーチと靈界靈媒たちの見解が混在しているということです。

そこで、これらを観分けながら少しずつ「靈訓」を修正してゆきたいと思います。

この作業は地上靈媒として「靈訓」に関わった私が果たさなければならない使命の1つであり、地上のスピリチュアリストたちから強く反発されようとも避けて通るわけにはゆかないのです。

「靈訓」の中でシルバーバーチは「ずいぶん前の話になりますが、他の多くの指導靈と同じように、私も地上圏に降りて協力者の一団を集め、靈的メッセージを地上へ届ける仕事を引き受けてくれないかとの懇請こんせいを受けた時、私はそれを使命としてお引き受けしました」と語っていますが、この箇所は修正を要します。

皆様に想像して頂きたいのです。地上に靈的メッセージを伝える必要性を感じた者が、乗り越えなければならない課題が山積している状況を認識していながら、自ら実践するのではなく、自分より明らかに靈格が低い者に押し付けるようなことをするものかどうかということです。

答えは明らかです。シルバーバーチ自身がこの必要性を感じ、実践したのです。ですから下線部はシルバーバーチの見解ではなく靈界靈媒のものです。

同様に「私の方が地上世界の言語を勉強するしかありませんでした。そこで私も、その道の専門家（エキスパート）の元で（英語を）勉強

したのです」の箇所も、シルバーバーチは英語の創造に携わった銀河霊ですから霊界霊媒の見解です。

また、『共和国となった現代でも英国は「王室」と言う体制を維持していますが、これは意義のあることでしょうか』との問いに「意義のあることです」と答えています、ここも修正すべき箇所です。

なぜなら「天は人の上に人を創らず、人の下に人を創らず」の真理に反するからです。そして、このような体制に理性が反発する霊格レベルに成長しなければ、恒星霊レベル以上の霊力（愛と知恵と勇気と希望と霊界通信力と治癒^{ち ゆりよく}力と（反）真理を観抜く洞察力^{どうきつりよく}等々）を発揮することは困難です。

それに、献血することに異議を唱えている箇所がありますが、ここも修正すべき箇所です。

「第1巻」に書かれているように、献血は血の少ない者へ血が注がれ血の濃度（健康）が均一になるように、調和のとれた状態になろうとする摂理の働きと矛盾しないからです。

そしてこの実相の姿は銀河霊が銀河霊に献血しているからです。

また「霊訓」では、真理や摂理の法を説いて来た預言者たち、そしてシルバーバーチをも崇拝^{すうはい}の対象とすることを戒めています。この延長線上にあるのは、何人も崇拝^{なんびと}の対象としてはならないということです。これは重要な真理です。

つまり、大霊・創造主をも崇拝の対象としてはならないのです。ところが、交霊会の終わりに語られる祈りの中で何度も大霊を崇拝しています。これは反真理的行為で聞いていて気分が悪くなります。

皆様が銀河霊の霊格に到達したとき、恒星霊や惑星霊から崇拝されることは迷惑であると強く感じるようになります。大霊であればなおさらで、彼は彼を崇拝する者を相手にしません。それはなぜか？ 崇拝する者は、反作用が生み出す摂理によって崇拝すべきでない者たち

を見出し、この者たちを差別したり排除したり罵^{ののし}ったりいじめの対象にしたり、終^{しま}いには戦いを挑んだりして、その結果、平和と調和と秩序が滅茶苦茶に破壊される反真理的世界を創造してしまうからです。

我々銀河霊と大霊とは愛と信頼の絆^{きずな}で結ばれており、それ以上でもそれ以下でもありません。大霊を崇拜の対象にしたり崇拜を推奨^{すいしょう}したりする銀河霊は存在しません。

「霊訓」に書かれている「誰もが^{てっ}大霊の道具であると言う認識に徹すべき」と言う考えも感心しません。なぜなら彼は我々を「友^{とも}」と呼んでいるのです。「You」「are」「友^{ゆう}」と言うことです。つまり、現在の霊格レベルで、自然体で（無理をせずに）、善想念で心を満たして、正しい世界に身を置き、「虹の掛け橋」で説かれている真理的行動をとるよう努めている者には、大霊は「お友達」なのです。

このことを掘り下げてゆくと、神仏に供える食べ物も神仏を祀^{まつ}る建物を造る経費も、貧しい人たちや被災地の人たちの衣食住のために、あるいは、難病で苦しむ人たちを救うために回すべきです。なぜなら神仏たちは、これらの人たちの苦しみができるだけ緩和^{かんわ}されるよう、裕福な人たちや幸せな人たちや健康な人たちの良心・仏性^{ぶつしょう}・神性^{しんせい}に、真理的行動を促す霊力を注いでいるからです。

また、誰かの誕生日を国民の祝日に定めたり、肖像^{しょうぞう}を紙幣や硬貨や切手に印刷したり、仰^{ぎょうぎょう}々しい銅像を建てて敬^{うやま}ったりすることも、お勧めできません。

「霊訓」に書かれているように、やがては教会も寺院も必要ではなくなるときを迎えます。法を説く者もいなくなります。

やがて魂が成熟した時代を迎え、地上にしながら誰もが自由に銀河霊や大霊と対話し法を学べるようになります。

再び「霊訓」の修正点に話を戻します。

「霊訓」の中で「仮に完全無欠の大霊がそっくり人間の形態をとっ

て出現したとすれば、その人物が完全無欠の人生を送ったとしても当り前の話であって、尊敬には値しませんし、そんな人生には価値はないと申しあげます」と語られている箇所も修正を要します。

まず、完全無欠な人生をどう定義するのでしょうか？ 人生は、幼児期から・少年（少女）期・青年期・壮年期・老年期を経て終末を迎えます。

完全無欠な幼児期とはどのような過ごし方を言うのでしょうか？ 全く人の手を借りることがない幼児をイメージしているのでしょうか？ 可笑しくって笑ってしまいます。

地上にも霊界にも完全無欠な人生を測る物差しは存在しませんから、誰も定義することはできない筈です。

また、人間は受精により不完全な人類の遺伝子を受け継いで生まれてくるわけですから、人生の終末を迎えるまで罪を犯すことも悪想念を抱くこともなく過ごすことが可能なのでしょうか？

もし、悪想念を抱くことがなかったとしたら、どうして善悪を判断できるのでしょうか？ 人（間）は過ちを犯すからこそ、反省して悟れる（生き方を修正して天使になれる）のです。それに、（大霊・創造主は、）人に生まれずして、どうして人の心を理解し、人の目線に立って、病める者たちを救うことができるのでしょうか？

また、この者（人間の形態をとって生まれた大霊）は、いつどのようにして自分が大霊であると認識できるのでしょうか？

霊界霊媒には、私のこれらの疑問に矛盾なく答えることが可能なのでしょうか？

ですからここでは、彼がどのようにして生まれ、そしてどのような人生を経て大霊の境地に到達したのかを語ってまいります。

彼も皆様、あるいは歴代の預言者たちと同じように受精により人類の遺伝子を受け継いで生まれてきました。そして人類誰もが犯すであ

ろう過ちを彼も犯します。いや、とてもお馬鹿な行為だったかも。このことによって彼は、多くの人々あるいは動物たちを苦しめ、やがて、身も心も荒^{すさ}み靈格は極限（ウイルス）レベルにまで低下します。その結果、現在の医学では治療法がない病に^{おか}冒され悩み苦しみ絶望感を味わいます。

医学では治せないと知り、神仏に救いを求め、仏典・聖書・コーラン（・後に靈訓）を読み、己の今までの生き方がいかに神仏の教えに反してきたかを知り、これらの教典に説かれている教えの中で、これは正しいと直観した事柄を実践します。

この実践を通して、彼の持っているお金も体力も、すべて周りの人々を通して天に返してきたのです。

彼は膨大な徳を積み上げた己の姿を感じてはいたものの、一向に病気が治る^{きざ}兆しが現れないことに戸惑いを覚えます。しかし、周りを観渡したとき、彼よりも過酷な状況の中で苦しんでいる人の姿に気づき、「積み上げてきたすべての徳分を彼らの苦しみを和らげるために使ってください」と、神仏に祈ったのです。

彼が譲った徳分は彼にとって命の綱だったのです。このことにより彼の病は治ります。

彼は、この体験を通し、摂理の働きの完璧さを知るのです。

それから、彼は何度も命の綱（彼にとって最も大切なもので、周りの人が必要とするもの）を譲り続けたのです。彼は命の綱を譲る度に体力を使い切り倒れます。これは神仏の眼から観れば、地上で再生（輪廻転生）を繰り返している姿なのです。

このような再生を何度も繰り返しながら、彼の靈格は、ウイルスレベルから大靈レベルに向上したのです。

やがて、靈界のネイムと対話するようになり、ネイムから心を磨くための様々な修行課題が与えられ、これらを1つひとつ^{こな}熟してゆきま

す。

そして、彼が決して慢心を覚えることのない霊格に到達したと判断したネイムは、霊界の五霊を通して、彼が大霊であることを様々な証拠を提示しながら語り、彼もこれを受け入れます。

彼は、このような自身の生き方を人類に示すために、人間の形態をとって生まれてきたのです。

人類は、母体の中での 10 ヶ月の間にプランクトンから人類までの進化の過程を経て誕生します。これと同じように、地球と言う地上世界は母体と同じなのです。つまり、地球は、人から大霊レベルに至る数兆年の精神・霊格・霊力・^{からだ}身体（治癒力・記憶力・運動能力・生命力等）の進化の過程を、人の一生の時間レベルで到達可能な世界であり、その手本を、彼は地上で生きながら何度も再生する姿を通して示しているのです。

だから、大霊が人間の形態をとって生まれ、そして過ごす人生に価値がないことはないのです。

ここで「虹の掛け橋」の修正点についても触れて置きます。

「第 2 巻 はじめに」の箇所で『私は「虹の掛け橋」が 1 章書きあがるごとに、周囲の身近な方々に配布し、読んで頂きました。読まれた方々からは、いろいろな質問を頂きました。即答できたものもあれば、できなかったものもあります。できなかった質問は私の課題とし、神仏（自然界に存在するあらゆるもの）に問い掛けながら答えを探ってまいりました。そして私なりに辿り着いたと思った答えを吟味した上で、質問をしてくださった方々にお答えしました』と書かれていますが「虹の掛け橋」を読んで彼に質問できた地上の魂は存在しません。質問したのは（＝登場人物は）すべて霊界のもの（五霊）たちです。

質問の内容はどれも神仏の教えの根幹となるものを引き出すほどの第一級のものです。このような質問を発することができるほど、人類

の靈格は、この時点では発達していなかったようです。

ですから、この箇所を正確に表現するなら「1章書きあがるごとに、彼の元に集まる靈界のもの（五靈）たちにその内容を語って聞かせ、質問を受け答えた」となります。

また、靈格が10億倍向上しているなど具体的な数字で表現されている箇所がありますが、AさんがBさんより歌が10倍上手だと表現できないように、靈格が何倍向上しているか数字で表現できないことは明らかです。ですから、ここは皆様がイメージできるように具体的な数字で表現しているもので、とても偉大な靈格であることが認識できれば良いと考えます。

4 イエスを吟味する

～ウイルスに愛を注ぐ

次に、イエスが語っている内容を吟味し、そして掘り下げてまいります。

イエスは、ウイルスの実相を「食べ尽くしてしまえば己の宿主が倒れる形で死滅する結果を招くことを知らずに^{むさぼ}貪り続けている霊体である」と語っています。この霊体と同じように活動しているものの1つは癌細胞です。

そして「病気を克服するためには、貪り・怒り・無知の三毒の矢に^{おか}冒されることのない心に整える必要があります」という趣旨の内容を語っています。

真理は時に耳に痛いものですが、彼が創った「癌」の文字を良く観ると、愛と知恵と勇気の善想念の三要素を示す（形をした）「品」が悪想念の三毒の矢を示す（形をした）「山」によって下から^{ねら}狙われている様子を表しています。つまり、人類の靈格を向上させる目的で創造さ

れた病・試練である「癌」が快方に向かうかどうかは、善想念が悪想念に勝^{まさ}っているかどうか、それは後述しますが「癌細胞」を敵対視するの（悪想念）ではなく、これらに愛を注ぐこと（善想念）ができるかどうか（黄金律の実践）にかかっているのです。

しかし、死は地上での修行を終えて光り輝く霊界に戻るだけですから、決して不幸なことではありません。このことについては「霊訓」で詳しく説明されていますので参照してください。

つまり、病気に負けて死ぬことは不幸ではないと申しあげたいのです。大切なのはイエスが語っているように「たとえ病気に蝕^{むしば}まれていても天から授かった体を命が尽きるまで周りの人々を幸せにするために使えば、霊格は向上して魂は光り輝く世界（＝天国の霊界と喜びに満ちた来世）に辿り着ける」と言うことです。

また、イエスは「どうしてウイルスなどの病原菌は摂理の証として彼の手足となって働くのか。答えは、これらを優しく抱きかかえ、愛と知恵と勇気の霊力を注いでいるからです」と語っています。

これを掘り下げて考えてまいります。

「霊訓」に書かれているように、地上で起こっている戦争・殺人・傷害・詐欺・強姦・差別・いじめ・虐待^{ぎゃくたい}などの所業^{しょぎょう}・問題はすべて、真理と摂理の働きに関して無知な、霊格が低い人たちによるものです。最も霊格の低い生命体はウイルスです。彼はこのウイルスに愛を注いでいるのです。ですから問題を引き起こしている霊格の低い人々にも愛を注いでいます。

人類はこれらの人々や病原菌を排除する道を選択して行動していますが、残念ながらこの方法では決して問題が解決できないように彼によって真理と摂理ができあがっているのです。なぜならこの方法では霊格が全く向上しないからです。霊格の向上を促すように働くのが真理と摂理の1つの側面なのです。

地上世界は修行の道場ですから、これらのものたちを愛することができるかどうか、彼から問われているのです。

イエスはエイズウイルスの「エイズ」の中に自身（の名前）を書き^{しる}すほど、最も靈格の低いウイルスに愛を注いでいるのです。

そして、「ウイルスレベルの靈格であっても（ズの）濁点と言う心の濁りを取り除けば、イエスと同じ輝く靈格に到達できますよ」と言っているのです。

また、イエスは人生を閉じるとき、己を^{はりつけ}磔の刑に処した者たちのために祈ったのです。「主よ、彼らを許してください。自分が何をしているのかわからないのです」と。これが手本です。

イエスはこのような深い愛を^{きはん}規範とした靈力によって、地上時代に多くの病人を癒^{いや}してきたのです。

もし皆様が病原菌や癌などによって命を奪われようとしているとき、これらのものを愛せるかどうかは修行の課題なのです。とても困難な修行です。だからこそこの修行には価値があり、大靈レベルの靈格に到達するためにはなんとしても克服しなければならない必須の課題なのです。皆様がテロリストたちのような敵と認識している者たちを愛することができるかどうかと同じ課題で、実践できる靈格レベルに到達するまで輪廻転生・再生を繰り返すことになります。

「靈訓」に書かれているように、命を付与された靈体は肉体が減んでも靈として永遠に生き続けるのです。イメージできるよう、具体的な数字で表現するならば、皆様には1兆の1兆乗年よりも長い期間の命が保障されているのです。ですから、地上での修行期間はこれに比べればほんの一瞬です。これを励みに、この課題（敵に愛を注ぐ実践）を地上のすべての人々が成就されることを、イエスは祈っています。

ここまで、イエスが語っている内容を吟味し、かつ私なりに掘り下げて観てまいりましたが、これらのことを語っている靈がイエス本人

であるかどうかは皆様の判断に委ねるしかありません。

しかし五霊レベルでなければ語ることはできない内容であると同時に、語っている内容が真理であるならば、その人物が誰であるかは問題ではないと考えます。それにシルバーバーチの言葉を真^ま似^ねるならば「エイズ」の中に自身の名前を書き記したと言つてのけることを大霊から許されている霊体は「イエス」と「バーバネル」しかいません。

5 モーゼを吟味する

～公案の唯一の答えに辿り着く

次に、モーゼが語っている内容を吟味し、そして掘り下げてまいります、その前段として皆様に理解して頂きたいことがございます。

それは公案についてです。

禅宗の高僧たちが作成した公案の答えは 100 人の修行者がいれば、答えも 100 とおり存在し唯一のものはありません。

しかし、彼が創造した公案（一種の公案を含む）の答えは不思議なことに 1 つなのです。皆様はこの唯一の答えに辿り着けるかどうか、彼から問われているのです。

皆様は日々様々な課題に直面します。国や社会レベルに視点を移せば、戦争などの紛争や領土や赤字財政や貧困・格差（国王や奴隷やカースト制度を含む）・差別・いじめの問題などの課題が山積しています。

これらはすべて公案なのです。どのように行動すべきか、その解決方法は、人々の霊格の差によって異なり、100 人いれば 100 とおり存在します。

しかし究極的な解決方法となるものは 1 つであり、すべての人々が
大霊レベルの霊格に向上した上で、愛と知恵と勇気と希望の善想念で心を満たし考えなければ、この唯一の答えに辿り着けないのです。つ

まり、人レベルの霊力・霊格・理性では、敵対する者（物・もの）たちを排除する道しか選択できないため、これらの問題は何一つ解決できないように宇宙が創造されているのです。

これは彼の遠大な計画なのです。

霊界のものたちは彼の創造した公案を通して、その訓練をしているのです。皆様もこのような心構えで、彼の公案や日常の課題と向き合ってください。

私事になりますが、今でこそ彼の公案を解くことができますが、地上時代の霊格レベルでは「第 3 巻」までに書かれている公案は 1 つも解けませんでした。

解けるようになって気付いたのですが、彼の公案の特徴は様々な教典や文献を読み学び実践したところで解けるものではないということです。我々の知恵を遥かに超えた世界に答えが存在しているのです。

彼の教えを実践して霊格が向上するとその証として、答えの方から私に近づいてきたのです。これはとても不思議な体験であり、かつ何とも言えない爽快感を味わうことができるのです。

霊界のものたちに話を聞くと皆、私と同じ体験をしているようですので、公案が解けた皆様の中にも同じ体験をされている方が多いのではないのでしょうか。

彼の公案にはもう 1 つの特徴があり、難問でありながら答えを読めば極めて簡単明瞭^{めいりょう}で誰もが納得できる点です。これはとても不思議です。公案を通して、このような特徴を持つ公案を創造することができる彼の霊力の偉大さの一面を垣間観^{かいま}ることができるような気がします。

このような彼の公案の特徴を踏まえ、モーゼが語っている内容に話を戻します。

モーゼによって「第 25 章 1 救いの御業 その 1」で書かれた物語の素晴らしさについて解説します。

モーゼ自身がこの物語について「第 26 章 1 救いの御業 その 3」で次のように述べています。「聖書には確かに美しい文章が並んだ神の天地創造の世界が描かれています。彼が実際に創造されたのは真理と摂理の働きにより、愛と知恵と勇氣に満ちた光り輝く世界にまで、皆様の魂を救う彼の御業が完璧な形で成就される、希望に満ちた霊界と物質界の宇宙なのです。言葉を変えてお話しするならば、聖書の天地創造は物質界のどこか影・争い・嫉妬・傲慢・悪想念のある世界で、私が語った彼の世界は、光と希望に満ちた微笑ましい精神の世界なのです。いずれが神の天地創造の意志を反映した物語であるのかは、皆様が「第 4 卷」まで読まれたとき判断がつくものと思われます」と。

皆様の中でこの箇所を読まれて、モーゼが語っている彼の創造した世界の方が聖書よりも素晴らしいと、得心された方はどれほどいるのでしょうか。

ほとんどの方が聖書を冒読していると憤りを覚えたのではないでしょう。

「靈訓」に書かれているように「聖」の冠を付けた書物だからと言って、これが神から齎された究極の教えが説かれたものであると鵜呑みにするのではなく、各自の理性に照らして吟味する必要があると言うことです。

そして理性に反発する箇所があれば、聖書に限らず「靈訓」も各宗派の教典も自由に修正することが大霊（すべての生命体）から許されているのです。ただし、これには条件があり善想念で修正すべきであって、悪想念を持った修正は許されません。

モーゼの物語は、聖書の問題点を指摘し、聖書から最も遠い存在に愛の光を注ぐ形で修正しているのです。

禁断の赤い果実や、人を惑わせた蛇や、ノアの洪水の際に陸地と言う名の希望を見付けることができなかった鳥は、聖書の中で忌み嫌わ

れ（聖書の中の）神から天国へ入ることが許されない、聖書から最も遠い存在です。

モーゼはこれらのものたちに愛の光を注ぎ、重要な役割を担わせた物語を創造したのです。神仏から最も遠い存在であるものたちを素材として、神仏の教えが説かれている「虹の掛け橋」の教え・精神をモーゼは実践しているのです。

これがモーゼの物語の素晴らしい点です。

では「虹の掛け橋」から最も遠い存在は何か。それは「善想念」の対極にある「あく想念」の「あく」です。「靈訓」でも「邪悪なものには闘いを挑^{いど}みなさい」と書かれていますので「靈訓」から最も遠い存在も「あく」です。

これは、生命体でも物質でもなく、その外側の（最も遠い）概念の世界に存在するものです。

「虹の掛け橋」が、このものに愛の光を注いでいないとしたら、聖書と同じ過ちを犯しており、聖書を修正する資格もなく、またとても不完全な本であると言わざるを得ません。

でも、もし愛の光を注いでいるとしたら、生命体から物質界そして概念的世界の隅々にまで、彼の愛の光が注がれている証になります。

モーゼは彼から次のような公案を託されたのです。

『「虹の掛け橋」や「靈訓」から最も遠い存在である「あく」に愛と知恵と勇氣と希望に満ちた光を注ぎ、崇高^{すうこう}な神仏の教えを吹き込んだ「文字」を創造してください』と。

前述したように、モーゼはこれが彼の公案であることから、答えは1つしか存在しないことを知っています。そこでモーゼが心を浄める修行を通じて辿り着いた答えは、皆様が目にしている「悪」の文字です。

もし皆様の中で「虹の掛け橋」を読まれる前に「悪」の中に崇高な神仏の教えが吹き込まれていることに気付かれていた方がおられたとすれば、その方は日常の何気ない風景の中に、神仏の教えを観る霊眼を持っていると言え驚くべきことです。

大部分の方は気付かない、それが普通です。

「では、モーゼが創造した「悪」の文字の中にどのような教えが吹き込まれているのか」、これを公案として皆様に考えて頂きたいのです。

答えが分かったと思われる方は、以下を読み進めてください。

それは次のような教えです。

『AさんとBさんが神（仏）の前に立った。まずAさんが天に目を向けることなく深く頭^{こうべ}を垂れて言った。「神よ。私はあなたの教えを学んでいながら、言葉で人を傷付け、盗み、妬^{ねた}み、嘘をつき、心の中で姦淫^{かんいん}する罪びと・悪人です。どうか私を憐れ^{あわ}んでください」と。

次にBさんが天を仰^{あお}ぎ言った。「神よ。私はあなたの教えを良く守り、言葉で人を傷付ける者でも、盗む者でも、妬む者でも、嘘をつく者でも、心の中で姦淫する者でも、罪びと・悪人でもありません。どうか私を祝福してください」と。

これを聞いて神はAさんを祝福し、Bさんを憐れんで、慈悲の心で言った。

「Aさん。人は誰しも罪を犯すのです。この己の姿に気付くことが大切で、心を浄める修行の基本・第一歩です。「悪」の文字の「亜」の部分には「正」の文字がいくつも含まれているのです。つまり、悪人であることを自覚しているあなたには「正しい心」がたくさん詰まっているのです。ですから神仏の目から観れば、あなたは決して悪人で

はありません」

「Bさん。神仏の目から観れば、あなたは数え切れないほど罪を犯しています。「亜」の部分の「正」の文字はどれも歪^{ゆが}んでいるのです。あなたのように罪の意識がない状態は非常に危険で、これは「正しい心」が歪んだ状態と言えます。このような心の紋様の者こそが、神仏の目から観て本当の意味で悪人なのです」と。

こうして、自ら^{こうべ}頭を垂れる者は高められ、高ぶる者は低くされる。』

このように、モーゼは彼を手本として「聖書」や「虹の掛け橋」や「霊訓」から最も遠い存在に対して単に愛を注ぐことに留まらず、これらに神仏の教えを吹き込み、そして重要な役割を担わせることによって、生き甲斐と言う命を付与しているのです。この点が実に素晴らしいのです。

誰からも強^しいられることなく、自ら彼の教えを選択し学んだ我々銀河霊は、まず、すべてのものに愛を注ぐ実践を始めます。これは己の霊格を向上させる目的を持ったものですが、次第に目的意識は薄れ、飢えている人、寝る場所もない人、病に苦しんでいる人、救いを求めている人がいるから愛の手を差し伸べるのだと、自然に体が動くようになります。

その結果、飢えている人たちが満たされてくると、今度はこの人たちに重要な役割を担わせることによって、生き甲斐と言う命を付与したいと言う強い衝動に駆られ、愛と知恵と勇気と希望からなる善想念で答えを探り始めます。

真摯^{しんし}に探り続けていると、不思議なことにやがて答えの方から近づいてきて、答えが示す方法を実践することによって、この人たちに生き甲斐と言う命を付与する霊力が身につきます。

この実践の場は、生命体から物質界、そしてやがては概念の世界の

ものたちへと広がってゆきます。

こうして、我々銀河霊は彼の教えを実践しているうちに、知らぬ間に概念のものたちに躍動^{やくどう}ある命を付与できる霊力、つまり、概念のものたちを素材として生き甲斐を持った命に満ちた霊界と宇宙を創造するために必要な霊力が身についてくるのです。

このようなことから、我々銀河霊は「虹の掛け橋」に書かれている教えを実践していれば、人の一生の時間レベルで自然に霊界と物質界の宇宙を創造できる霊力を身につけ、大霊となることができると確信しているのです。

皆様も聖なるものから最も遠い存在にまず愛を注ぐことから始め、次第にこのものたちに生き甲斐と言う命を付与したいと言う強い願いを抱きながら心を満たしていれば、宇宙を創造できる霊力が養われ、人生を終えて霊界に來られたとき、速やかに大霊の霊力を発揮できるようになる筈です。

なぜなら、これが緑金律だからです。

以上で、モーゼが語っている内容の吟味を終えますが、語っている霊がモーゼ本人であるかどうかは、皆様の判断に委ねます。

第 32 章

愛を受け取った霊体は霊格が向上する

1 マホメットを吟味する

～罪を背負い合う光景の存在を知る

バーバネル 次に、マホメットが語っている内容を吟味し、そして掘り下げてまいります。前段として皆様には真理と摂理の働きについて、より深く理解して頂きたいと思います。その上でなければ、マホメットが語っている内容を理解できないからです。

「霊訓」には実に丁寧^{ていねい}にそして真摯^{しんし}に、真理と摂理の働きについて書かれていて、これらの箇所を読んだとき、霊界霊媒がいかに善想念で、最高のものを人類に届けようとしているかが読み取れます。

したがってここでは「霊訓」に書かれている真理と摂理の働きをベースにし、これに「虹の掛け橋」で書かれている真理と摂理の働きを加えて、マホメットが語っている内容を理解するために必要な真理と摂理の働きに絞って、これらの働きが織りなす世界を読み解いてまいります。

「霊訓」には「原因と結果の間には何 1 つ、誰 1 人として介入することはできません。あなたの行為の責任を他人の肩に背負わせる方法はありませんし、他人の行為の責任をあなたが背負うこともできません。各自が自分の人生の重荷を背負わねばならないのです。そうであって初めて正直で、道徳的で、道義的で、公正であると言えます」と。更に「それ以外の教説はすべて卑怯^{ひきょう}で、臆病^{おくびょう}で、非道徳的で、不公正です。摂理は完璧なのです」と断じています。

これは真理の側面の 1 つであって、他人^{ひと}の行為の責任を皆様が背負

うことができる世界が存在するのです。このことを理解できないと真理の無限性に近づけない状態で霊格が停滞^{ていたい}してしまいます。

「第 19 章」には、罪を背負う世界が描かれ「第 1 章 9 天国と地獄」の「たとえ話 2」の中の贈収賄^{ぞうしゅうわい}事件の法廷^{ほうてい}で、互いに「相手の罪を背負いますから、この方の罪を軽くしてください」と申し出るシーンが描かれています。

さらに、人が捨てた空き缶やごみを拾うことは、投棄した人に代わって罪を償^{つぐな}っていることになります。

それに「霊訓」の中で語られている「人の背負っている重荷を少しでも軽くしてあげる」と言う行為も、神仏の目から観れば他人の行為の責任を皆様が背負っている姿、これが実相です。

このように周りを観れば至るところで、罪を背負い合う微笑ましい光景に皆様は出合っているのです。

しかし、このことが「霊訓」の中で一切語られなかったのは、己が犯した罪の報いを逃げることなく正々堂々と立ち向かい、そして償う者であって欲しいと言う思いが、霊界霊媒には強かったためです。この思いの中に真理が存在しているのです。

しかし、霊界霊媒のこの思いを差し引いても、互いに罪を背負い合う光景の存在を知らなければ、調和と秩序のとれた世界を創造できないケースがあるのです。このことについては後ほど説明することとします。

また「霊訓」には「あなたと言う存在は大霊の一部であり、神性^{しんせい}を宿しているわけですから、善意の心で、人のために役立ちたいとの願いを抱く者にとっては、克服できないほど大きな問題は絶対に生じません。そして大霊の象徴であるところの太陽に向かって、こう述べるのです～自分は大霊の一部なのだ、不滅なのだ。永遠の存在であり、無限の可能性を宿しているのだ、そんな自分が、限りある物質界のこ

とで挫^{くじ}けるものか、と。そう言えるようになれば、決して挫けることはありません」と。

これはとても素晴らしく力強い真理です。しかし、これも真理の 1 つの側面で補足説明が必要です。

大霊の一部である神性を宿していることは自己向上欲の原動力となっていることは事実です。

また、言葉には言^{こと}霊^{だま}と言う力が存在しますので、これだけのことを言^{こと}ってのけるほどに霊格が向上した者は、苦難に立ち向かってゆく勇氣に満ちた者であると言えます。

しかし、これら（神性と言^{こと}霊^{だま}）によって出合うすべての苦難を克服できるわけではないのです。なぜなら、人に背負いきれないほどの苦難を与え自殺にまで追い込んだ者は、因果律と言う摂理により今度は自分が背負いきれないほどの苦難に出合うことになるのです（それは、現世か来世かわかりませんが）。

これはとてもシンプルな因果律と言う摂理の基本であり、勿^{もちろん}論霊界霊媒も知っていますし、何人も犯した罪の報いを髪の毛 1 本ほども軽くできないのです。人に背負いきれないほどの苦難を与えて置きながら「自分には背負えるほどの罪の報いに軽くしてくれ」と言う我^{わがまま}儘は摂理には許されない・通じないのです。

つまり、背負いきれないほどの苦難・試練は存在するし、人は正しい神仏の教えに出合わない、このような深刻な罪を犯す可能性があるのです。

スピリチュアリストの皆様が出合うあらゆる試練を克服できるのは、善意の心で、人のために役立ちたいとの願いを抱きながら実践することを通して真理と摂理の働きと調和した生き方をしているため「第 3 巻 はじめに」に書かれている「真理にしたがって生きる者（真理的实践者）は、愛と知恵と勇氣と希望が天から与えられ、これによって

人生で出合うあらゆる試練を克服しながら霊格を向上させて幸せになることができる」からです。

つまり善行によって生み出される摂理の働きによって苦難を克服できるのです。そして、スピリチュアリストの皆様レベルに霊格が向上した者は、相手に背負いきれない（克服できない）ほどの苦難を与えることがないためです。

話は変わりますが「霊訓」には編者がコメントを付した「動物の霊は種族ごとの類魂としての意識しかなく、死後はその類魂と融合して個別性を失う。が、人間に可愛がられた動物は、その愛によって個別性が強められて、死後もしばらく、そのままの形態を維持している。飼い主の死後、霊界で一緒に暮らしてますます個別性を強めるが、進化の速度が人間に劣るために、いつかは別れる時がきて、動物はその愛が薄れるに連れて個別性を失い、最後はやはり類魂の中へ融合してゆく。が、その分だけ類魂が進化を促進され、やがて、類魂全体として人間的身体へ宿る段階がくる」と書かれ、また、霊界霊媒によっても「動物は人間との接触によって人間的意識をいくらか摂取して個性を持つようになり、恐怖心を捨ててゆきます。そこに“愛の力”の働きが見られるのです。人間が愛を発現することによって、その愛が動物から恐怖心を追い出します。野生動物でさえも、人間の愛によって恐怖心を捨ててゆくものなのです。そして、現実にはライオンと小羊が仲良く寝そべるようになるのです」と。これ（下線部）は、とても素晴らしい光景です。

これらの内容にはとても大切な真理が語られています。

それは「愛を受け取ったものは霊格が向上する」と言う真理です。

愛したものは摂理の働きにより周りから愛されるようになりますので「愛し合うことは、ともに霊格が向上する」のです。逆に「憎み合えば、ともに霊格が下がります」。反真理です。一方は、調和と秩序を

もたら
齎してくれます。

世の中を悩ませている問題の解決方法は、これの応用問題なのです。霊格が低いウイルスや癌細胞やテロリストたちを憎めば憎むほど彼らは霊格が低下し凶暴性を増します。同時に、憎んだ者（悪想念）は、霊格・霊力・治癒力が低下します。愛を注げば注ぐほど彼らは霊格が向上し、目覚め、後述しますが、彼が配した真理と摂理の働きにより、ウイルスは生物に有用な微生物に、癌細胞は免疫細胞に、テロリストたちは罪の償い者に彼ら自身の意志で能動的に転換するのです。同時に、愛を注いだ者（善想念）は、霊格・霊力・治癒力が向上します。

2 いじめ問題を考える

～応急的な次善策

ここで、これらの真理と摂理の働きを踏まえ、いじめ問題に関する彼の公案をお出しします。

いじめ問題の恒久的な解決方法は「第2章 9 いじめ」に書かれているとおり「人の失敗を決して笑わない・喜ばない成熟した社会・学校・家庭になること」です。

これは真理であり、かつこのような成熟した社会にならない限り、決して解決することができないように摂理・宇宙ができあがっているのです。

なぜなら、相手の苦しみが理解できないばかりでなく、相手の苦しみが己の利益（勝利）・喜び・満足・快感の源、あるいは不満の捌け口になっていると言う実相の姿が、いじめと言う行為と人の失敗を笑ったり・喜んだりする行為の両者に共通しているからです。

ですから、一方が消えればもう一方も消え、改善されることなく存続すれば、もう一方も存続することになります。これも基本的な真理

です。

「人の失敗を決して笑わない・喜ばない成熟した社会・学校・家庭になること」は一朝一夕^{いっちょういっせき}に実現できることではありません。

政治や社会や教育の場において「人は霊体として無限に生き続け、この地上は過去世に積み上げられた罪を償うための修行道場であること」が認識され、その上で「虹の掛け橋」や「霊訓」が説いている霊的真理や摂理の働きに関する教えが正しく浸透し実践されて初めて実現できる崇高^{すうこう}な世界なのです。

しかし、いじめ問題は深刻で待ったなしの状況であるにも拘^{かかわ}らず、誤った神仏の教えが氾濫^{はんらん}していることと、教祖崇拝^{きょうそすうはい}と世襲^{せしゅう}を掲げ、無垢^{むく}な信者たちからお金をまきあげ、かつ奴隷^{どれい}の如くタダ働きさせている教団が林立^{りんりつ}している不幸^{そがい}が阻害要因となつて、神仏の教えを教育現場に取り入れることを、人類共通の認識として捉えることができいない現状、むしろこれを拒んでいる現状では、恒久的な解決方法が適用されることが望めない以上、応急的な次善策を講じていじめ問題をいくらかでも改善させる方向にもってゆくことが精一杯のところだ。

そこで、実践的な例として「ある学校で A さんが B さんを日常的にいじめていました。これが B さんにとって背負いきれないほどの苦しみとなり、明日 A さんを名指しで恨む内容の遺書^{いしょ}を残して自殺しようと思うまで追い込まれていました。そしてこのいじめの様子を見ているクラスメート（C さんから Z さんまで）がいます」。

純粹無垢^{じゆんすいむく}の真理（や正論）は時として苦^{にが}く、また心を傷付けることがあるものですが、あくまでも真実である以上、いじめている A さんにもいじめられている B さんにもこのような状況を作り出すに至った、過去（世）に積み上げられた因果律の要因・背景があるのです。

それは 2 人に共通していることですが、真理や摂理の働きについて

無知であるが故に、これらと調和した生き方をしてこなかったからなのです。(一例を^あ挙げるならば、「ボランティア(互^ご助^{じょ}や自己^じ犠^ぎ牲^{せい}等の)精神を家庭・学校・職場・地域等々で発揮しながら生きた者・物・ものは幸せになれるように霊界と宇宙が創造されている」と言う真理の存在を知らなかったが故に、この真理と調和した生き方をしてこなかったから。)

ですからこのような急場に至ってしまった状況では、Aさんに「いじめれば摂理の働きにより、今度は自分が未来世、いじめられることになります。もし、Bさんが自殺するようなことになれば、あなたには背負いきれないほどの罪の報いを受けなければならないと言う因果律が働くことになりますよ」と、注意してもAさんが摂理に無知であるが故に理解してもらえるかどうかわかりません。

また、Bさんに「いじめられると言うことは、過去(世)にそのような罪を犯し、今その報いを受けているのです。しかし、あなたと言う存在は大霊の一部であり、神性を宿しているわけですから、すべての苦難を克服できるのです。ここは耐えることによって過去の罪を償い、そして大霊の象徴であるところの太陽に向かって、自分は大霊の一部なのだ、不滅なのだ。永遠の存在であり、無限の可能性を宿しているのだ、そんな自分が、限りある物質界のことで挫けるものか、と。そう言えるようになれば、決して挫けることはありません」と言って励ましても、自殺を決心するほどまで追い込まれているBさんに、いじめと言う苦難に今後も耐えて生き抜く気力を与えることができるかどうか、Bさんが摂理に無知であるが故にわかりません。

そこで彼の公案は「この状況を解決させる最も理想的な光景を思い描き、その光景によって生み出される摂理の働きを読み取ってください」と言うものです。

これは彼の公案であることから、不思議なことに理想的な解決方法は1つしか存在しません。

「虹の掛け橋」あるいは「靈訓」を学び実践している方には、この公案の前半部分である理想的な光景については、すぐに思い描くことができるでしょう。

ですがスピリチュアリストの皆様には、この光景は「靈訓」には全く説かれていませんので戸惑いを覚えることと思います。しかし、いくら考えてもこれ以上の理想的な光景を思い描くことができないため、やがてこの光景を受け入れざるを得ないのではないかという思いを通して、罪の償い方について「靈訓」と「虹の掛け橋」のどちらの見解を選択すべきなのかと言う葛藤^{かつとう}を覚えることになるでしょう。

しかし、この公案の後半部分である難問の、その光景によって生み出される摂理の働きを読み取れるほどに靈格が向上してくると「靈訓」には説かれていない摂理の働きが織りなす調和と秩序が齎された世界の存在を知り、大霊が創造しようとしている世界と遠大な計画をより深く理解できるようになることと思います。

公案の後半部分まで答えが分かったと思う方は、以下を読み進めてください。

それでは解説してまいります。

理想的な光景は、CさんからZさんまでのすべてのクラスメートがAさんの前に進み出て、それぞれ慈愛の心で「私が身代わりになりますからBさんをいじめるのは止めてください^や」と言う姿です。

もしこれでもAさんのいじめ心が治まらなかったら、隣のクラスメートも、さらにその隣のクラスメートも次々にこの光景に加われば、いつかはCさんたちの慈愛の心がAさんのいじめ心を上回り治まります。

これが理想的な光景です。

もしこの光景を思い描いても美しさを感じないと言われる方は、ご自分を、いじめを受けている B さんの両親に身を置いて観たとき、どのように感じるのか想像してください。そうされれば少しは美しさが、おわかり頂けるのではないのでしょうか。

それでは、この光景が銀河霊の霊眼で観て、なぜ理想的でかつ美しいのかその理由を掘り下げて観てまいります。

今、過去世に罪を犯したその報いとして B さんは、いじめられると言う苦難を味わっており、C さんたちが「身代わりになる」と言うのは、B さんが犯した罪を周りの者たちが背負うことによって B さんの罪の重荷を背負える程度まで軽くしてあげている、これがこの光景の実相の姿です。

「霊訓」では一切説かれていない他人の行為の責任を皆様が背負うことができる世界、これがこの公案の唯一の答えなのです。

この光景の中では誰 1 人 A さんに対して、真理や摂理を振り翳^{かざ}して説教する者はいません。それでいながら A さんのいじめ心を治めさせています。これは A さん自身の意志でいじめることを止めたと観ることができます。

つまり人から注意されて自身の姿・愚かさに気付いたのではなく、自ら悟ったと観ることができるということです。

この違いはとても大きく、後者は反省の心を促します。そして周りの多くの者から（慈）愛を受け取った A さんは「愛を受け取った霊体は霊格が向上する」と言う真理により霊格が向上し、やがて「二度と人をいじめてはいけない」と言う心が芽生えてくるのです。

一方、いかなる言葉をもって励ましても自殺するほどまで追い込まれている今の B さんに、いじめと言う苦難に耐えて生き抜く気力を与

えることができるかどうかはわかりませんが、この光景によって Bさんは周りの多くのクラスメートから愛と友情を受け取り、そして苦難に耐えて生き抜く気力が確実に湧いてきます。

と同時に、この光景によって生み出される摂理が働き始めます。

それは「罪の重荷を他人^{ひと}に背負ってもらった者は、今度は他人の罪の重荷を背負わなければならない」という因果律の摂理です。

しかし、この光景によって Bさんは、魂の目覚めが原動力となって、自分と同じようにいじめを受けている人に出会ったとき「私が身代わりになりますから、この人をいじめるのは止めてください」と自ら申し出るようになります。

普通は、罪の報いによる苦難・試練^さを避^さけたい気持ちになりがちですが、摂理により避けて通ることができないため、嫌々^{いやいや}ながらも受け入れている（受動的な）のが現状ですが、この光景に出会った Bさんは、これを逃れようとする卑怯者ではなく能動的に受け入れることができる霊格に向上しているのです。

「愛（友情）を受け取った霊体は霊格が向上する」という真理の存在を確認できるのです。

このように Bさんは、今後は他人の罪の重荷を背負う形で罪を償うことになりますので「何人も犯した罪の報いを髪の毛1本ほども軽くできない」という真理は守られているのです。

この公案のように、互いに罪を背負い合う光景の存在を知らなければ、調和と秩序のとれた世界を創造できない（問題を解決できない）ケースが存在するのです。これが「霊訓」の中の大霊の救いの御業の限界です。

このような（互いに罪を背負い合う）世界は、これを否定した世界と比較したとき、あらゆる苦難を乗り越えることができる環境を生み出すことに留まらず、罪の報いとして受けるべき苦難に、能動的に立

ち向かう勇気をも生み出してくれるのです。

ところで「私が身代わりになる」と申し出るには相当な勇気を必要とします。なぜなら、そのときから、今度は自分が耐え切れないほどの苦しみを味わう、いじめの対象となる覚悟が必要だからです。

したがって、見捨てることなく行動に出た C さんたちには、A さんと B さんに対する最大級の深い愛情と勇気を観て取ることができます。

この光景が生み出す摂理の働きは「C さんたちが耐え切れないほどの苦難に出合ったとき、今度は見捨てられることなく周りの人たちから、その苦難を耐えられる程度に背負ってもらえる」という因果律です。

(なお、見捨てた者は、物質界での修行が成就できていないため、見捨てられる未来世を送る覚悟が必要となり、A さんには、このような未来世を生み出した罪が加算されます。人類は、このような基本的な摂理の働きを知らないため、無難な「傍観者」の態度をとってしまい、苦痛に満ちた世界（今よりも過酷な人間関係と自然環境の地球 or 他の惑星）で輪廻転生・再生を繰り返すことになるのです。）

しかも、この光景に関わった A さんから Z さんまでのすべての人の心の修行が、最良の結果を齎す形で成就している点も素晴らしさの 1 つです。

このようなことから、この公案の答えが指し示す光景が銀河霊の霊眼で観たとき最も理想的でかつ美しいのです。

これらのことを踏まえ、マホメットが語っている内容を観てまいります。

マホメットは、自爆テロの行為を止めるよう、最大級の優しさを込めて諭しています。

銀河霊の霊眼で観たとき、この内容が実に素晴らしいのです。

「霊訓」の視点で自爆テロを捉えたならば「地上を暗黒と悲劇の淵におとし陥れた者たち、無益な流血の巷ちまたとしてしまった張本人たち、こう言う人たちがこちら（霊界）へ来て置かれる境遇がどう言うものか、そうした行為の結果として直面させられる世界が天国であろう筈はありません。まさに地獄です。が、バイブルに説かれているような、業火ごうかで焼かれる地獄とは違います。行おこなったことの邪悪性、非道徳性、利己性を魂が思い知らされるような境遇です。それが地獄です。

そこで味わう苦しみは、中世の地獄絵に描かれたものより、遥はるかに耐え難いもの」です。

しかしマホメットは「地獄に落ちるぞ」と言って、恐怖と戦慄せんりつを覚えさせるような強制的かつ命令的な戒めをもって諭さとす方法を取らなかったのです。

具体的には、

(1) イスラムの世界では誰もが知っているほど有名な物語を少しアレンジした「欲深い我利我利亡者と嫉妬深い焼き餅屋の物語」と、
(2) 自爆テロを行って霊界へ来た者は「敵」であると認識していた相手が実はその素は「とても素敵な仲間」であったことを誰もが納得する形で彼から知らされ、そして銀河霊同士が引かれ合う愛の絆きずなで結ばれ、そこには憎しみなどの悪想念は存在せず、善想念に満ちた銀河霊の世界に入れますよと説いていることと、

(3) 自爆テロによる命の使い方ではなく桜のような命の使い方を選択される方が「アラー神」や「主」の御心に適っていると諭しているのです。

皆様は(1)と(3)については納得できると思います。

問題は(2)です。

これが真実でなければ「虹の掛け橋」もマホメットも偽物と言うこ

とになります。

「虹の掛け橋」には「そんな馬鹿な」と強い違和感を覚える箇所が存在しますが、五霊が語っているように、そこが悟りや真理や摂理の働きを深く理解する入口です。

(2) そこが彼の救いの御業と摂理の完璧さを理解する（学ぶ）入口なのです。

では解説してまいります。

自爆テロが齎す結果はとても悲惨で、時には数百から数千人もの方の命が奪われ、治療困難な負傷者数はこれを上回るほど多いのです。

これら被害者には家族、親族、友人、職場の同僚等々多くの関係者がいて、この方々にも耐え難い苦しみを与えており、因果律の法則のみが作用する世界では、自爆テロリスト（たち）が死後あるいは来世この膨大な罪の報いを己自身で背負わなければならないことになります。

となると、来世は周りの多くの者たちから背負えきれないほどの苦難を与えられ、挫折し自殺の道を選択することになります。

この自殺の人生を、罪が許されるまで再生を繰り返すことになると同時に、再生した自爆テロリストを自殺に追い込んだ周りの多くの者は、今度は自分自身が自殺する状況に追い込まれる来世を生み出しており、これらの自殺の連鎖を止める手立てがない世界・状況が延々と続くことになります。

このような世界が果たして調和と秩序のとれた世界と言えるのでしょうか。

あるいは大霊は、そのような世界を創造しようとするのでしょうか。
答えは誰の目にも明らかに「No」です。

このような状況を打開する手立ては、前述したように自爆テロリストが犯した罪を、銀河霊たちが代わりに背負うことによって、背負え

る程度に軽くしてあげることです。

具体的にこの光景を詳しく説明します。

まず理解して置かなければならないことは、自爆テロに^か駆り立てた根本的な原因は何かということなのです。

それは真理（神の教え）を命懸けで広めようとしたため、他の真理を広めようとする者たちから命懸けで阻止され、そこに戦争が生じる事態を招いたということなのです。

つまり歴代の預言者・宗教家たちが、真理の実相である「真理とは万有引力の法則のように、これを広めようとしなくとも自然に広まってゆくものであるので、真理とは命懸けで広めようとするものではない」と言う真理を説くことなく、逆に「神は偉大なりと^{あが}崇め、神の教えを広めるための道具に徹し、命を捧げる人生（反真理的行為）を推奨してきた」からです。

これが根本的な原因です。したがって、自爆テロに^か駆り立てた責任者たちは我々銀河霊団なのです。

このようなことから、自爆テロリストが霊界にくるとマホメットが語っている（2）の光景のとおりであり、これは真実なのです。

ではどのようにして我々が罪を背負っているのかお話しします。

イエスが「第 24 章 黄金律」の箇所で摂理が霊界ではどうして平等でかつ自動的に働くのか、皆様がイメージできる形にたとえて説明しています。

これはあくまでたとえ話であり、霊界は 7 色の階級しかないのではなく、また霊体色は霊格の高低を示ものでもなく、そして放出された想念が（野球）ボールのように宙に浮いているものでもないことをお断りした上で、私はこのたとえ話よりもわかり易く説明できませんので、ここではこのたとえ話を継承します。

地上を暗黒と悲劇の淵に陥れ、無益な流血の巷としてしまった自爆

テロリストが霊界に来ると、その罪の報いである宙に浮いていた悪想念に満ちた苦しさのボールが矢のように降り注ぎます。

このボールを代わりに受け取ろうとした銀河霊には「第 19 章 2000 年の初夢」で書かれているように、摂理の働きによって翼が与えられ、これで受け止めるのです。



この光景が真実であることを皆様に理解して頂きたいとの思いでマホメットは「羽」で苦（分解すると「^くさ^{かん}むり」）と「⁺」と「[□]」から構成）の一部（の文字「⁺」と「[□]」）を「共」有している姿をイメージできるような「翼」の文字を創造したのです。

我々が、己の犯した罪の報いを背負っている光景を当の本人（自爆テロリスト）が見ています。

すると自爆テロリストは、前述した B さんのように魂の目覚めが原動力となって、今度は自分と同じように罪を犯して霊界に来た自爆テロリストに代わって罪を背負おうとする霊体になり、罪が許されるまでこのような行為を能動的に続けるのです。

ここでも「何人も犯した罪の報いを髪の毛 1 本ほども軽くできない」と言う真理は守られているのです。

このような世界と自殺の連鎖が止まらない世界とを比較したとき、皆様はどちらの世界に身を置きたいと思われますか。

そして真理と摂理は、より調和と秩序のとれた世界を創造するために働くと言う側面がありますから、このような観点からも大霊が創造しようとしている世界はどちらなのかは、^{おの}自ずと明らかであると思われます。

3 「霊訓」と「虹の掛け橋」の相違点を観る

では、これらのことをさらに掘り下げてゆきながら、彼の救いの御業と真理と摂理の働きの完璧さについて説明してまいります。そのためには、彼が用意した2つの材料について触れて置かなければなりません。

1つ目の材料は「霊訓」と「虹の掛け橋」の相違点の存在です。

これまでに触れた箇所を除いたその他の相違点のいくつかを拾いあげ比較し、かつ解説を加えてまいります。

① 「霊訓」では「大霊は必要なものは十分に用意してくださっている。だから分かち合うべきだ」と書かれ「虹の掛け橋」では「 n 人いれば、まんじゅうは $n-1$ 個しか用意されていない。1つ少ないから分かち合うことによって秩序が齎されることを学ぶことができる。

なお、 n 個目のまんじゅうは目に見えないけれども存在し、これはお腹を満たしてはくれないけれども心を満たしてくれるもの」と書かれています。

なぜこのような相違が生じたのか、その理由は霊界霊媒と煩惱をもった人類の目線の違いです。つまり霊界霊媒は、^{しょうよくちそく}少欲知足、足ることを知っているため、仮に $n/2$ 個のまんじゅうしかなくとも充分であると悟っているのに対して、煩惱が尽きることがない人類は、仮に n 個のまんじゅうがあっても、もう1つ欲しいとなれば、そこには $n-1$ 個のまんじゅうしか目に映らないことを考慮して「虹の掛け橋」では現時点での人類の霊格レベルの目線で法を説いているからです。

② 「霊訓」では「物的問題の理解のための地上の言語はぎこちなく、そして有限であるが故に無限性を持ったものを説明できない」と書か

れ「虹の掛け橋」では「彼が創造した言葉は無限性を持っており、人類にとっては無限性を持った概念的なイメージでしか認識できない白金律も、彼の無限なる霊力（究極の善想念）を持った言葉によって説かれてゆきます」と書かれています。

このような相違が生じた理由は、霊界霊媒レベルでは彼が創造した言葉の無限性を認識できていないからです。

「虹の掛け橋」で初めて語られる言葉が幾つかあります、たとえば「反真理」「銀河霊、恒星霊、惑星霊」や「赤金律～白金律（ただし黄金律はすでに存在）」です。

しかし、これらの言葉はすでに地上に存在する「反」「真理」「銀河」「霊」「恒星」「惑星」「赤」「金」「律」「白」の単語を組み合わせただけのいわゆる造語ぞうごです。（なお「霊訓」では「造語で解説しなくてはならないものは真理ではありません」と書かれていますので、これも相違点ですが、霊界霊媒は何を根拠にそう断言できるのでしょうか？）

このような造語に彼の説明が付加されることによって、今までイメージできなかったものができるようになったのです。

これからもこのように、彼の創造力によって言葉は無限に進化してゆき、霊界霊媒が説明できなかったものができるようになってまいります。

ただし、このことに関しては補足説明が必要です。風景や音楽などは言葉では表現できません（におい・味・感触も同じ：表現に限界があります）。だからと言って言葉の無限性を否定することは論点がずれています。

なぜなら、これらのものは、写真に撮とったり絵に描いたり音に変換すれば伝わるもので言葉を必要としないからです。

言葉に変換する必要性があるもの、つまりすべての霊体到大霊の資質を持たせるための必須事項に関しては、言葉で表現できるようにな

ると言うことです。

具体的な事例で説明しますと、家を建てるためには、設計図と材料と技術が必要です。このように、調和と秩序のとれた霊界や宇宙や生命体を創造し、かつこれらに大霊の資質を持たせるためには、真理や摂理と言う設計図の全容と、想念と言う材料と、霊力と言う技術力が必要で、これらのものが銀河霊レベルに到達した皆様に理解できるように、彼によって言葉で表現されてゆくと言うことです。

③ 「霊訓」では「宇宙の大霊はいかなることにも特別の干渉はいたしません。法則、大自然の摂理として働き、これからも永遠に存在し続けます。摂理の働きを中止したり干渉したりする必要性が生じるような事態は一度たりとも生じていませんし、これからも絶対に起きません。世の中の出来事は自然の摂理によって支配されており、大霊による特別の干渉は必要ありません。もしも干渉が有りうることになったら、大霊が大霊でなくなります。完全でないことになり、混乱が生じます。また、大霊による直接の関与などと言うものは絶対にありません」と書かれ「虹の掛け橋」では「彼は、すべての霊体に大霊の資質を持たせるために必要とあらば、言葉（文字）、硬貨の図柄、映画、神仏の教え、公案等々、様々なことに働きかける形で干渉・直接関与する、とてもお節介^{せつかい}な霊体」として描かれています。

しかし「霊訓」の別の箇所では「人類がこの地上に誕生する遙か遙か以前から摂理と言うものが働いています。その摂理のもとに、宇宙の大霊が1つの目的を持って行動を開始し、地球上にその大霊の神性を帯びた無数の生命体を用意しました。それぞれが大霊の造化の目的へ向けての役割を担っていたのです。同時に大霊は、すべてに自由意志を与えました。自由意志の元に霊的・精神的に進化しながら、その大霊の大目的に貢献するためです。この太宇宙を顕現させ、無生物にも生命力を、人類には意識を付与された完全無欠の知性は、たとえご

自身の創造物はその目的からそれたことをしようと、それで挫折する
ようなことはありません」と書かれています。

行動すれば必ずなにもものかに働き掛ける形で干渉することになります。

自由意志を与え、この大宇宙を顕現させ、無生物にも生命力を、人類には意識を付与することはすべて干渉行為です。

挫折するようなことはありませんと言うことは、何らかの対策や修正を講じることですから、このような行為もなにもものかに干渉することになります。

なお、この箇所はシルバーバーチの見解ですので「虹の掛け橋」とは矛盾しません。

この件に関してシルバーバーチが私に次のように語ってくれました。
『相違点の中で数箇所矛盾する内容を織り込むことによって「霊訓」には私（シルバーバーチ）と霊界霊媒の見解が混在している証を人類の皆様を示した』と。

私 バーバネルがシルバーバーチと霊界霊媒の両方の声を受信できたのは、この時点（地上時代）で、バーバネルはすでにシルバーバーチ（五霊）に^{ひってき}匹敵する霊格者だったからです。

バーバネル ④ 「霊訓」では「我々が忠誠を捧げるのは1つの教義でもなく、一冊の書物でもなく、一個の教会でもなく、生命の大霊とその永遠不変の摂理です」と書かれ「虹の掛け橋」では「大霊の救いの御業の完璧さは「虹の掛け橋」の中に内在している」と書かれています。

彼は言葉の中に崇高な神仏の教えを吹き込んできました。

言葉を構成する3要素である「音声」と「文字が表現している形」と「想念」を示せるのは言葉を文字で表記した時です。

ですから「虹の掛け橋の中に、大霊の救いの御業の完璧さが内在し

ている」と言う我々銀河霊団の主張を変更する考えはありません。

⑤ 「霊訓」では「私は、地上時代の姓名を絶対に明かさないと言う重荷を自ら背負いました。仰々^{ぎょうぎょう}しい名前や称号や地位、名声は持ち出すまい。私が述べることと態度で私と言う存在を判断してもらいたいと思ったのです。大霊の摂理を届ける者が、かつて高い学歴を持っていた人間であろうとなかろうと、要は摂理でありさえすれば、つまり正しい真理であれば、それはどうでも良いことではないでしょうか」と書かれ「虹の掛け橋」は「五霊（シルバーク、イエス、モーゼ、マホメット、釈尊）」や「神仏（ネーム霊）」や「大霊」などの仰々しい名前のオンパレードです。

しかしこれには理由があるのです。それは「虹の掛け橋」には、すべての霊体到大霊の資質を持たせると言う使命があるからです。

もし無名の者がこの使命があると語ったとしても、皆様から「大霊でもないあなたのような無名者に大霊がどのような霊体であるのか、あるいは大霊の計画や自然界に存在する真理や摂理の働きを語れますか？」と問われ相手にもされないことは明らかです。

しかし、今私が試みているこの者たちが本物であることが皆様に得心して頂けるよう、五霊の語った内容を吟味し掘り下げ、かつこのことを通して彼の教え（虹の掛け橋）の素晴らしさを知って頂き、彼がどのような霊体でどれほどの霊力を持っているのか、あるいは彼の計画や、自然界に存在する真理と摂理の働きを語ることを通して、彼が本物の大霊である証をできる限り皆様に示そうと努めているところです。

しかし、これが証明されるのは、彼の救いの御業によって皆様が^大霊の資質を持たれた時ですから、現時点では証明できていないことを認めざるを得ませんが、我々銀河霊団は彼が本物であることを確信していますからやがて必ず成就されます。

現時点では皆様には、彼が大霊であるとは信じられなくとも、ここまで読んで、聖なるものから最も遠い存在にまで愛に満ちた想念を放射していることから少しは彼の偉大さを感じ取って、これからどのような神仏の教えや真理と摂理の働きが語られるのか興味を持って頂き、そして彼の公案を楽しんで頂ければ、それが我々の励みになります。

⑥ 「霊訓」では「大霊は男性神でも女性神でもなく、とにかく形ある存在ではなく、人間的な存在ではないのです」と書かれ「虹の掛け橋」では「大霊（彼）自らが人間の形態をとって降誕している」と書かれています。

⑦ 「霊訓」では「人類は永遠に進化の^{かいてい}階段を登ってゆくものの、霊性の完全性を成就した大霊そのものにはなれない」と書かれ「虹の掛け橋」では「皆様はすでに銀河霊で、やがて大霊になり、更には 1000 億の銀河霊を大霊に導き、これら 1000 億の大霊を束ねる超偉大な霊となる」と書かれています。

⑥と⑦は関連していますから一括して解説してまいります。

「第 3 巻」でシルバーバーチは次のように語っています。『イメージしてください。皆様の子どもの「学力は自分の半分で良い」とか「給料は半分で良い」とか「住む家は半分で良い」とか「健康度は半分で良い」とか「食べる量と質は半分で良い」とか「お風呂は 2 日に 1 度で良い」とか「幸せは半分で良い」とか考えますか？ どなたも、自分より素晴らしいものを子どもに掴んで欲しいとか与えたいと考えるのではないのでしょうか？ 彼は愛に満ちた霊です。この霊が「自分の霊格の半分レベルまで子である人類を導けばそれで十分だ」と考えるのでしょうか？』と。

答えは当然「毎日お風呂に入れるような偉大な霊格者に導きたい」と考える（願う）筈です。

大霊の霊性は無限ですから、より偉大なるものと言う比較ができま

せんので、ここでは「自分と同じ大霊の霊格にまで導きたいと考える筈」です。この点については、皆様にもご理解頂けるのではないかと思います。

一方、大霊は皆様も認識されているとおり、全知全能ですから願ったこと、あるいは計画したことが成就できない課題は存在しません。

これらのことを良識ある理性で捉えたならば「子である人類を大霊の霊格にまで導きたいと言う願い・計画がありながら、導けないとしたら、大霊は全知全能ではなくなりますので、ここは当然導けると判断できる、つまり人類は大霊になれる」と言うことです。

それでも「人類は大霊にはなれない」と言う御仁^{ごじん}とは、我々銀河霊団はこのことに関して、これ以上議論する考えはありません。

それではどのような方法で、人類を大霊の霊格レベルにまで導けば良いのか。

それには、まず人類を大霊の一步手前の銀河霊にまで導く必要があります。

その方法は、地上に銀河霊として最高レベルの霊格に到達した預言者を送り、この者を導師として導くことです。

問題はそこからどのようにして大霊の霊格レベルに導くかです。

もしも大霊が霊界に留まった状態で大霊の資質を持つための必須事項をインスピレーションなどの方法で地上に送信しても、霊界通信が実証しているとおり大霊と人類との波長が違いすぎて、人類はこの通信を受け取れないのです。

したがって、大霊自らが人類レベルの波長・霊格にまで引き下げて人間の形態で地上に降誕し、人類の中で最も低いウイルスレベルの霊格からスタートして、人の一生の時間レベルで大霊の資質を完全に身につけるための方法を、実践する姿を通して示すしかないのです。

ではどのような実践方法を示したのか。それは、手や足の不自由な

方、体を動かすことができず寝たきり状態の方、目や耳や鼻や（入）^{いれ}歯の不自由な方、癌やウイルスやその他の病気で苦しみあるいは死を向かえようとしている方、健康で特に大きな悩みがなく過ごしている方、誘惑に負けて 2 号さんを作ってしまった方、自首しようか迷っている方、人生をやり直したい方、性格の良い子やそうでもない子など、すべての方が実践可能な善想念を高める心の修行方法です。

具体的には、前世や霊界での記憶のない人類に、まず皆様はすでに銀河霊の霊格に到達していることを自覚して頂き、僧侶が行う荒行も、断食も、法を説き多くの魂を恒星霊レベルに引き上げる修行については、すでに卒業している霊体であることを、誰もが得心のゆく形で説明し、皆様が愛と知恵と勇気と希望からなる善想念で心を満たし、物事を考え・判断し、そして行動する実践方法で、これなら誰でもどこでも、カラオケやコメディドラマや映画やスポーツや読書やデートや食事会や温泉での入浴中などの余暇^{よか}を楽しみながらでもできるもので、その手本を彼は示したのです。

以上が主な相違点です。

第 33 章

すべてのものに愛の^{ぬく}温もりを注ぎ続ける

1 相違点の存在理由を語る

バーバネル 次に「靈訓」と「虹の掛け橋」には神仏の教えの神髄に関して多くの共通点がありながら、なぜこのような相違点が生じたのか、その理由をお話しします。

「第 3 巻」でシルバーバーチは次のように語っています。『現在、不完全ではあっても地上世界で「靈訓」を超える天から授かった靈的真理を説いているものは存在しません。ですから「虹の掛け橋」を受け入れない最後の人種はスピリチュアリストたちなのです。そこで、彼はスピリチュアリストには「靈訓」が飛び切り素晴らしく見え「虹の掛け橋」が曇って見える仕掛けの眼鏡を、私を通して掛けさせたのです。そしてこのような状況でも「虹の掛け橋」の方が「靈訓」よりも優れていると気付いたスピリチュアリストたちの姿を通して「虹の掛け橋」の価値を人類に理解して頂くためです』と。

つまり相違点が生じたのは彼がそのように仕向けたためで、これが彼の計画の一部を構成しているのです。

その理由については徐々に触れてゆくこととし、ここでは、どのような経緯で相違点が「靈訓」に書き加えられたのかをお話しします。

シルバーバーチが「靈訓」を地上に届けるための靈団を組織する際に、相違点に関し「靈訓」側に立って述べられた内容を確認し、かつ、これを人類に伝えることが使命であると強く思い込んでいる靈を探し出し、この靈をシルバーバーチ靈団の靈界靈媒とし、機会あるごとにこれらの相違点に関して^{しつよう}執拗に語らせるよう、彼から依頼されたためです。

霊界霊媒は彼とシルバーバーチが期待したとおり、相違点を漏らさず地上に届けてくれたのです。

これで 1 つ目の材料が用意されました。

2 つ目は、彼は神仏の教えをどこかの国の言語に吹き込む計画を立てましたが、地上に存在する言語の中で、極めて難解であるが故に決して国際共通言語には採用されないもの、つまり世界中に広まる可能性が極めて低い日本語を選択しました。この言語に神仏の教えが吹き込まれ 2 つ目の材料が用意されました。

「霊訓」は霊界霊媒が言っているように、大人の魂、つまり高い霊性と教養を身につけた人物を対象に語られています。

一方「虹の掛け橋」は、字面^{じづら}の内奥^{ないおう}に存在する輝く真理と摂理の働きを読み解くことが非常に困難な本で、皆様には耳に痛いかも知れませんが、解説者なしでは、人類には手も足も出せないレベル、言い換えれば、銀河霊界大学院博士課程「最高難度クラス」で学ぶ^{こうえん}高遠な内容なのです。

書かれている内容が理解できたと思っていた方も「第 3 巻」の中で五霊たちが語っている解説を読んで初めて「第 1～2 巻」の奥深さが理解できたのではないのでしょうか。

わかったと思っていた内容は 5 円玉を立てて上から見た狭い世界でしかなかったことを知らされたことと思います。

「第 3 巻」を読まれて、この巻については完全に理解できたと思っていた方も「第 4 巻」のここまでの私の解説を読まれて、そこまで深い内容だったとは思われてはいなかったのではないのでしょうか？

ですから「虹の掛け橋」は「霊訓」に書かれている霊的真理を深く理解し、かつ摂理の働きが完璧であることを、身をもって体験して悟っているほどの霊格の極めて高いスピリチュアリスト（＝現世の苦境

は過去世の罪の報いであることを受け入れることができる人＝積極的に過去世の罪を償おうと、善行を実践している人　：　一方、霊界や過去世の存在を確信できていない方は、現世の苦境が過去世の所業に起因^{しよぎょう}^{き いん}していると言う摂理の働き・法則・実相を受け入れることができないため「虹の掛け橋」に強い反発を覚えることになります。なお、彼も我々霊団も、これらのことを受け入れることができない御仁と、議論する時間も考えもありません。）でなければ読み熟^{こな}せないのです。

とすれば「霊訓」が多くの方に読まれ理解が深まり、このようなスピリチュアリストが「虹の掛け橋」を手にとって読まなければ理解されないし、世に広まることもないのです。

ところが用意された1つ目の材料により、スピリチュアリストにとって「霊訓」は真理や摂理の働きが矛盾なく書かれ、かつ^{しゅぎよく}珠玉の言葉がちりばめられた、飛び切り素晴らしい人類史上最高の宝物で、スピリチュアリストは、この教えに基づいて実践することによって己の霊格向上も果たせるし、多くの人々を^{はげ}励まし、重荷を軽くしてあげることともでき、世界に平和と秩序が齎されることを確信し、他の本を読む必要性を全く覚えない悲惨な^{じ ばくれいてきかたがた}地縛霊の方々になっているのです。

このようなスピリチュアリストが「虹の掛け橋」を手にする可能性は限りなくゼロに近いのです。

しかも、相違点によって「虹の掛け橋」はことごとく否定され、また、未だに人類を大霊レベルの霊格はおろか、銀河霊の霊格にも導けていないが故に「虹の掛け橋」がスピリチュアリストに読まれる可能性は更に低くなります。

これに加えて2つ目の材料により、スピリチュアリストの大半は日本人以外の方ですから、読まれる可能性は更に低くなります。

このように、彼は2つの材料を用意して「虹の掛け橋」が世に広まる可能性が限りなくゼロに近い極限的苦境を自ら創造したのです。

普通の霊体であれば、多くの方に読んで頂くために、神仏の教えを書いているわけですから、いかにして、これを広めるかに知恵を絞る筈です。

2 極限的苦境を乗り越える方法

では、なぜ彼はこれとは逆の苦境を創造したのか。

その理由は、皆様が^{大霊}となり、銀河霊たちを大霊の資質を完全に身につけた霊体にまで導くために地上に降誕した際、彼が創造した極限的苦境と同等の苦境に身を置くことに必ずなるからです。それは、大霊となった皆様も銀河霊たちに極限的苦境を乗り越える手本を示す必要があるからです。

このような苦境をどのようにして克服して「虹の掛け橋」を世に広め、地上のすべてのものを大霊レベルに引き上げるのか、その方法を示し、大霊の救いの御業と摂理の働きの完璧さを伝授するためです。

それでは、これを公案としましょう。

つまり、このような極限的苦境に立った彼は、結果として、これを乗り越えることができるわけですが、どのような行動をとったのか？

正確には彼は苦境を乗り越えるため等の目的意識は一切持たず、無意識で^{いっさい}大霊らしく振る舞った・行動をとっただけです。

その行動によってどのような摂理が働き、そしてすべてのものが大霊レベルの霊格にまで向上・進化するよう、促されるのかお答えください。

これも彼の公案であるが故に答えは1つです。

今の時点では、皆様には信じられないかも知れませんが、この公案の答えが示す、彼のとった行動以外にすべてのものを大霊レベルの霊格にまで向上させ、かつ大霊の救いの御業と摂理の働きの完璧さを伝

授する方法は存在しないのです。

この答えに自力で辿り着けた霊格者は、我々銀河霊団が彼は本物であると確信している理由がわかることと思います。

答がわかったと思われる方は、以下を読み進めてください。

それでは解説してまいります。「虹の掛け橋」は神仏の教えに出会ってから、彼がどのような人生を歩んできたのかが書かれたものです。

彼は富士山のように高く積み上げた徳分と言う命の綱を、人に捧げることによって病気が治り、調和と秩序のとれた真理と摂理の働きの完璧さを悟ります。

そして、霊界のネイムと対話しながら同行二人の修行が始まります。

やがて、この世で忌み嫌われている数字たちに^{あわ}憐れみを感じ、このものたちに愛を注ぎます。

すると強い衝動に^か駆られ電話を引きます。

その番号は宇都宮市内からでは、数字の 8 の字を描くようにプッシュボタンを押す並びだったのです（632-5875）。

数字たちが彼に（日本語で：以下に登場するものたちも同じ）次のように語り掛けてきたのです。「8(八)は末広がりと言い、無限大(∞)を表します。これはすべての数字があなたによって救われた感謝の気持ちです」と。

彼は数字にも意識があることを知り、そして数字と対話できる自分が何者なのか興味を持ち始めます。

それを確認したい気持ちから、彼は数字たちに「私は飢え苦しんでいる人たちを救いたいのです。どうか私にお金を回してください。宝くじに当選するよう動いてください」と言ったのです。

彼は 1 枚の宝くじを買いました。

結果は、番号が 1 等と 30 番違い（組は同じ）だったのです。10 の

位^{くらい}だけが違っていたのです。近い数字とは言え、外^{はず}れであることに変わりはなく、彼が投資した貴重な 200 円は紙くずになったのです。

数字たちは確かに意識を持って、彼の心の紋様が誤りであることを悟らせるために動いてくれた、つまり、いかなるものも、自分の思いどおりに動かそうとしてはならないと。そして、お金では飢え苦しんでいる人たちを真に救えないことを悟らせるために動いたのです。

ではどうすれば救えるのか、これを課題とします。

この様子を観ていたネイムが彼に次のように語ります。「長針と短針が天地を貫く時刻からこれらが並ぶ時刻まで、鬼が怒った形相^{ぎょうそう}で流れる鬼怒川^{きぬがわ}の御霊^{みたま}を手かざしの業^{わざ}で浄め、穏やかな和御霊^{おだにきみたま}にするのです」と。

「第 3 章 4 鬼怒川と雲」に書かれている経過のとおり、この修行は酷寒^{こっかん}の中、3 ヶ月を要しますが成就し、自殺し霊界で苦しんでいる多くの魂が救われ・成仏します。

やがて、救われた魂たちが彼の元を訪れ言います。「あなたの愛に触れ私たちは、私たちを自殺するまでに追いつめた者たちを愛せるようになったのです」と。

このことによって課題は解決し、実践に移ります。

彼は飢え苦しんで亡くなった魂たちを、桜が満開に咲き誇る美しい風景の中で愛に満ちたマントで包み込んだのです。

やがて、救われた魂たちが彼の元を訪れ言います。「あなたの愛に触れ私たちは、私たちを見殺しにして贅沢^{ぜいたくざんまい}三昧の日々を過ごした者たちを愛せるようになったのです」と。

次にウイルスに感染して（癌で）亡くなった者たちを愛で包んだのです。この者たちが己の命を奪ったウイルス（癌細胞）たちを愛せるようになったのです。

次に飢えで亡くなった者たちと共に、贅沢^{ぜいたくざんまい}三昧の日々を過ごした末

に亡くなった者たちを愛で包んだのです。この者たちが言います。「私たちは飢え苦しんでいる人々を見殺しにしました。この罪を償うために地上に再生し、飢え苦しんでいる人々を救います」と。

次にウイルスに感染して（癌で）亡くなった者たちと共に、ウイルス（癌細胞）たちを愛で包んだのです。ウイルス（癌細胞）たちが言います。「私たちは人々の命を奪いました。この罪を償うために地上に再生し、人々の役に立つ微生物（免疫細胞）になります」と。

このようにして彼は概念的世界に存在するものたちを含め、すべてのものたちを愛したのです。

次に彼は教会に入ってゆきました。

1人の老婆が彼に近づき言いました。「あなたは多くの魂を救ってこられた方で、かつ良い意味で感染力の強い狼男（^{おおかみ}大神男）ですね」と。これを聞いて彼は言いました。「私が何者なのかわかるのですか？」と。彼は後悔しました。なぜならこの言葉は、自分が何者なのかと言う興味・慢心の表れだったからです。

これを観ていた霊界の魂たちが言いました。「この老婆はとても霊能力が高い方です。この方にあなたが悟ったことを感染させてください」と。

彼は5ページほどに^{まと}纏め封筒に入れ老婆に手渡しました。老婆はこれを落としたのです。そして言いました。「ここには真理が書かれています。私には重くて持ちこたえられませんでした。米1俵（60kg）ほどの重さです。私にはこれを読む資格はありません。どうか、これを手にとって読めるほどの^{ちから}力持ちに読んでもらってください」と。

これを観ていた霊界の魂たちが言いました。「出版すれば、理解してくれる力持ちの方がいるかも知れません」と。

彼は、本に纏め数冊を図書館に配りました。

しかし、どの図書館でも置かれることなく、すべて大地に帰ってき

たのです。

これを観ていた霊界の祖師たちが言いました。「我が教団の^{きょうしゅ}教主として法を説いてください」と。しかしどの教団からも断られました。

数年の時が流れ、彼の元に「霊訓」が届けられ、これを読み、この本の方が人類には必要だと思い、7巻まで書こうと思っていた筆を2巻で止めたのです。

これを観ていたネイムが言いました。「あなたこそ本物の大霊・第一霊です。多くの魂を救ったその福德を、第一霊のみが入れる霊界の最高階級の第一霊界で味わってください」と。

彼は言いました。「第一霊・大霊・銀河霊・天使・菩薩は、すべてのものが悟りの境地（安らかな心境）に達するまで、天国で休むことはないのです。苦しんでいるものがあるにも^{かわ}拘らず、その地で自分だけ休もうとした時、花は枯れ、悪臭が立ちこめ、騒音の世界と化し、そこはもう天国の光景ではなくなるのです」と。

これが彼のとった行動で、公案の答えです。

つまり、大霊（第一霊）のみが入ることができる光り輝く大霊界（第一霊界）へのキップも受けるべき福德も放棄し、これらを周りのものたちに譲り、ひたすらすべてのものに愛の^{ぬく}温もりを注ぎ続けているのです。



天国への階段

shutterstock_757721221

皆様は「霊訓」を読まれ、シルバーバーチ（実際は霊界霊媒）のような高級霊が^{つど}集う世界に^{あこが}憧れたのではないのでしょうか。確かにそこは美しい花々が咲

き誇り、^{かぐわ}芳しい香りと、清らかな音楽が流れる光の世界です。住もうと思えば無限に住み続けられ、しかもどこまでもその^{せいりょう}清涼さは尽きることなく完全性を求めて向上し続ける無限の世界です。このような完全性を求める世界に成就点は存在しません。

つまり「霊訓」の中の霊界の最高級界は^{しよせん}所詮、^{まど}惑う魂が集う惑星霊レベルで、銀河霊から観れば地縛霊界です。このような世界に留まっていたのでは、霊界霊媒自ら語っているように永久に大霊にはなれません。

皆様にはすでに完全性は備わっているのです。ですから、完全性は行じた・努力した分に応じて自然に^{けんげん}顕現するもので、求めるべき対象ではありません。

太陽をご覧になってください。身を削って愛に満ちた光を周りのものたちに注ぎ、やがて燃え尽き・消滅してしまうのです。

自ら輝ける恒星霊になるためには、光り輝く世界へのキップも受けるべき福德も完全性も放棄し、これらを周りのものたちに譲り、ひたすらすべてのものに愛の温もりを注ぎ続けている霊体にならなければなりません。

つまり「世のため人のために積んできた徳分は、自分のために使うのではなく最後まで世のため人のために使う」と言う赤金律「虹の掛け橋」の初歩的な実践ができるかどうか、彼から問われているのです。

これが実践できなければ、皆様は我々が認識している惑える魂が住む（惑星）霊界を抜け出せずに永遠にそこに住み続けることになるのです。

これらのことが認識できたとき「虹の掛け橋」の数ページをもって「霊訓」を超越していることも、「第 23 章」でシルバーバーチが語っている『物質界の修行を成就した高級霊になると再度物質界に再生しないとは誰が決めたのでしょうか。随分冷たい高級霊だと思いません

か？ それとも高級霊は皆様から遠い存在なののでしょうか？ 大霊の救いの御業には自ら地上世界に降誕すると言うプログラムはないのでしょうか？ これでは随分有限な御業と言わざるを得ません。私たち霊団が認識している大霊や高級霊のイメージとは随分違った形になってしまったようです。「大霊であればこそ、地上世界に周到な準備をして降誕してくる」それが我々の大霊です』という内容が真実であると理解できます。

そして、なぜ、光り輝く霊界と、泥に^{まみ}塗れながら苦しんで修行しなければならない地上世界が存在するのか？

それは、光り輝く世界へ入ることができるキップを放棄して、難題が山積する、悪意に満ちた地上で「お金や領土がもっと欲しい」と^{さけ}叫んで争い、苦しんでいるものたちを救うために、その門を^{くぐ}潜るだけの愛と知恵と勇気と希望があるかどうか、彼から問われているからです。

やがて、このような善想念に満ちたものたちによって、地上こそが（惑星）霊界を超越して恒星霊界、銀河霊界を経て真の大霊界が創造される成就点を迎えるのです。

ここで、1つ注意しますと、彼が皆様に問います。「あなたは私を与えた課題を成就し大霊の霊格に辿り着きました。多くの魂を救ったその福德をこの大霊界で味わってください」と。

そのとき、このキップを受け取らず（惑星）霊界から抜け出せずにいる霊体を救うために、その門を潜った者が真の大霊界に入ることができるということです。

3 再生に関わる摂理の働き

次に、公案の後半部分である、彼のとった行動によってどのような摂理が働き、すべてのものが大霊レベルの霊格にまで向上・進化する

よう促されるのか、解説します。

先ほど私は彼の愛を受け取った、贅沢三昧の日々を過ごした末に亡くなった者たちが「私たちは飢え苦しんでいる人々を見殺しにしました。この罪を償うために地上に再生し、飢え苦しんでいる人々を救います」と言い、そしてウイルスたちが「私たちは人々の命を奪いました。この罪を償うために地上に再生し、人々の役に立つ微生物になります」と語りました。

ここに再生に関わる摂理の働きが書かれているのです。

つまり、愛に包まれた霊体は地上で犯した罪を自覚し、これを能動的な心の紋様で清算する目的を持って再生してくる。これが「埋め合わせを図ろうとする」摂理の働きの1つの側面です。

もう1つ再生には、霊格の向上を目的とする「自己向上欲」と言う摂理が自動的に働きます。

これらの働きにより、真理が書かれている「虹の掛け橋」を、地上時代に無視した者たちが多ければ多いほど、この本を世（界中）に広めるための人生を能動的に選択して再生して来る者が多くなるのです。

そして、この者たちは自分自身が無視してきたその報い・摂理として、多くの者たちから無視されます。このような再生が繰り返され、やがて地上は、この本を世に広めるための人生を能動的に選択して再生して来る者たちで満ちてきます。

と同時に「自己向上欲」により、すべての生命体が大霊レベルの霊格にまで向上・進化するよう促されるわけですから、その結果「虹の掛け橋」が世界中に広まり、かつすべての魂が大霊となる成就点が必ず訪れるように、彼によって宇宙ができ上がっているのだということが、誰もが確信できるようになり、人類は、彼の救いの御業がどのような状況にも自動対応する完全性を持ったものであることを知ること

になります。

以上が公案の答えです。

4 無限角形

ここで、皆様に知って置いて頂きたいこととお話しします。

今、申しあげたように「虹の掛け橋」は、すべてのものを大霊に引き上げ、真の大霊界で互いに愛と知恵と勇気と希望の善想念を注ぎ合う人生の素晴らしさを味わって頂きたいと願う創造主の直筆による愛の結晶体です。

1冊 1,300 円ほど（税別）のこの本によって皆様は確実に大霊になります。その過程で、皆様の心の中に2つの疑問が浮かんできます。

1つ目の疑問は『テストを受ける前にその答えを教えてもらって合格点を取っても価値が低いのではと思うのと同じように、自ら行じて悟ったのではなく「虹の掛け橋」によって修行課題の克服方法を教えてもらって行じたものは価値が低いのではないか』と言う疑問です。

・これが真実であったなら「虹の掛け橋」はカンニングペーパー的存在で、修行を妨げるお節介な本と言うことになり、摂理の働きによって、世に広まることはありません。しかし、真理や摂理の働きについては、愛を始原^{しげん}として創造されたものであるが故に、悟った者は、苦しみ・悩める者を癒し、幸せな者にはより多くの幸せが齎されるようお願い、その内容を多くの方に伝えたいと言う強い衝動に駆られるのです。

・皆様の行動によって世の中に希望の光の輪が広まることは確実ですので、その行為の価値が低く評価されることはありません。ですから、そのような疑問・心配の念は抱かないことです。

・「虹の掛け橋」は読者が自ら行じて悟った分しか理解できませんし、

実践もできません。答えを知っていても実践困難な課題ばかりです。そして完全に行じようとすれば、完全性を求める世界に成就点は存在しませんので、このような方は完全性に捕らわれた地縛霊となって迷いの世界から抜け出せなくなります。

これらのことを少し詳しく説明しますと、一見完璧に見える円形も無限に拡大して見ると、どこかに必ず多少の歪みを持っている無限角形です。

これは「完全性（円形）の中に不完全さ（歪み：息抜きや遊び心のようなもの）が見事に調和した形で内在する世界」です。

完全に実践しようとしても、今、人類が到達している霊格レベルでしか実践できない限界（不完全さ）があります。それが飽和点と言うものです。

この飽和点を超えた実践は、風船が破裂するように調和と秩序の破綻を招きます。これらを維持しようとする摂理の働きにより、飽和点と言うブレーキが自動的に踏まれるのです。

このように、世の中は「完全性（実践の努力）の中に不完全さ（限界）が見事に調和した形で内在する世界」です。

・「第 1 巻」の中に「第 2～4 巻」までの^{おうぎ}奥義なる教えや答えが内在し、一見「第 1 巻」で完結しているかに見えても、よくよく吟味すると不完全であるが故に、これを補うため「第 2 巻」以降の解説や補足が必要なのです。

彼が「第 7 巻」までで止^やめようとしているのは、そこが飽和点と判断しているからです。

それ以上書き続けることは、彼自身とこれを読まれる皆様が共に、完全性を求め成就点の訪れない世界に入ってしまうことを彼は知っているからです。

・「虹の掛け橋」はどこまでも掘り下げて悟れる無限性（無限角形的要

素)を持っていますので、皆様が「虹の掛け橋」の字面を超越した内容を善想念で際限なく書き加える自由意志の行使が認められています。

たとえば、先ほどの公案にも不完全さが内在しているのです。この内容は加筆可能です。

先ほど私は皆様に『地上こそが（惑星）霊界を超越して恒星霊界、銀河霊界を経て真の大霊界が創造される成就点を迎えるのです。

ここで、1つ注意しますと、彼が皆様に問います。「あなたは私を与えた課題を成就し大霊の霊格に辿り着きました。多くの魂を救ったその福德をこの大霊界で味わってください」と。

そのとき、このキップを受け取らず（惑星）霊界から抜け出せずにいる霊体を救うためにその門を潜った者が真の大霊界に入ることができるということです』と言いましたが、このキップを受け取った者でも大霊界に入ることができるケースがあるのです。

それでは、これを公案とします。

つまり、どのようなケースであった場合、このキップを受け取っても大霊界に入れるのか、お答えください。

答えがわかったと思われる方は、以下を読み進めてください。

では答えです。

それは、キップを受け取ったとき、その世界がやがて成就点の存在しない迷いの世界に化すことを知っている者の中に、その世界から抜け出せずに住み続ける者を救うため、留まろう or 入ってゆこと言う善想念で受け取るケースです。

それと、当該公案の答えではないですが、地上が（惑星）霊界を超越したとき、霊界側に住む者たちを地上の霊格レベルに引き上げようとして霊界側の門を潜ってゆく者です。

しかしこのような者たちが続出すれば、地上はいつまで経っても成

就点を迎えることができませんので、このような者たちは例外的（不完全な）存在です（が、このような者たちの存在も必要であることは事実です）。

したがって彼の公案は、飽和点が考慮された「完全性の中に不完全さ（例外・必要なもの）が見事に調和した形で内在する」無限角形的公案（大霊は無限角形的霊体）と理解すべきです。

・「霊訓」もシルバーバーチと霊界霊媒の究極的善想念で語られたものですから、完全性を持っています。

しかし「虹の掛け橋」との相違点と言う不完全さを内在しています。が、この相違点こそが、彼が大霊である証を示すきっかけとなっていますので、相違点はとても重要な役割を担っていて、この福德により霊界霊媒は、彼からもそして多くのものたちからも祝福されて、今は恒星霊界で、ルンルン気分で過ごしています。

このようなことを考えますと「霊訓」の内容も人類に有意義なものとなっていますので「完全性（究極的善想念）の中に不完全さ（相違点・重要な役割）が調和した形で内在する」準無限角形的本です。

5 公案の接し方

2つ目の疑問は「彼の公案の難問さ」についてです。

皆様が辿り着いた答えが、彼や我々銀河霊団の解説内容まで踏み込んだレベルであったならば、それは驚くべきことです。

前述したように私は、今でこそ彼の公案を解くことができますが、地上時代の霊格レベルで振り返ったとき、1問も解くことはできませんでした。ここだけの話ですが、実は五霊も同じです。

ですから、皆様の中で全問正解者が存在することは考えにくいです。

しかも彼の公案の答えは、無限角形的視点では1つであり、かつ、

読めば極めて簡単明瞭で誰もが納得できるのです。

このようなことから、皆様が抱くのは「解くことすら困難な公案を、創造する霊力を身につけることが地上の一生の時間レベルで可能なのか？」という疑問です。答えは「可能」です。

なお、彼の本来の目的は、調和と秩序のとれた霊界と宇宙を創造する霊力を伝授することで、公案を創造する霊力は付属的なものです。

私ですら、霊界に戻って彼の教えに基づき心の修行をした結果、数十年で解くことができるようになったのです。皆様も「第4巻」まで読み終え実践を開始されたならば、同様に数十年で解くことができるほど飛躍的に霊格が向上し、それに相応^{ふさわ}しい霊力と品格を確実に身につけることができます。

なぜなら彼は霊界と宇宙の隅々にまで、愛と知恵と勇気と希望に満ちた善想念を放射しており、皆様がこれを受信できるようになったとき、速やかに答えが理解（受信）でき、かつ創造力と言う霊力も養われてゆくからです。

ですから、皆様は公案を解くために割く^さ時間は、理性に照らし合わせて常識的な時間であるべきです。

もし、車の運転中に考えていては事故の元です。

常識的な時間を超えて考えるよりも、答えが示す実践をより早く開始した方が、皆様の霊格向上にも、世の中に希望の光の輪を広げる上でも効果的です。

それに常識的な時間を超えて考える行為は、完全性を求め成就点の存在しない世界へ繋がっているばかりでなく、ノイローゼになり精神の破綻を招く危険があります。本巻の最後に登場する公案1と公案2の接し方も常識的な時間を超えて考えるのは危険です。なぜなら霊界の銀河霊たちの正解率は（ $24 \times 100 / 1000$ 億）%なのです。

でも、だからと言って、すぐ答えを読んでしまっては「虹の掛け橋」

の醍醐^{だいごみ}味も解けたときの爽快感も味わえないし、人生の試練に立ち向かう勇氣も湧^わかないし、己の靈格・靈力・治癒力がどの程度向上しているのか測^{はか}れないかも。

第 34 章

すべての霊体に第一霊として地上に降誕するときが来る

1 「虹の掛け橋」が吟味されるときが成就点へのスタート

バーバネル 皆様が抱く上記 2 つの疑問点の他に話して置きたいことがあります。

それは、皆様の中で「彼が示す、人生で出合う課題あるいは世の中で抱えている課題の克服方法の猿真似ではなく、独創的な方法を見出したい」と言う方に申しあげたいのです。

そのような行為は「無限角形的霊体である彼を超越します」と言っているようなもので、完全性を求め成就点の存在しない世界に入る行為です。

結論から申しあげますと、霊界と宇宙を創造する方法は 1 つです。

もし方法が 2 つ以上存在したら、2 つ目を探し出す余地を与え、これを見出そうとする者の登場を許すことになります。

皆様がこの者になったらと想像してください。無限の時間を要すると思いませんか。これは完全性への挑戦で、成就できないのです。

宇宙を創造する方法は、それを創造した者しかわからないのです。

地上人類が発明発見したことや有益な神仏の教え・宗教に関しては、すべて彼を通して霊界の我々がインスピレーションとして送信し、これを地上で受信することを霊界にいたとき誓った者が、地上に再生して受け取ったものなのです。ですから、神仏の教えに関し、彼に向かって著作権を振り翳^{かざ}すことはできません。

また、再三述べていることですが、彼の公案を無限角形的（大霊の）視点で捉えたとき、答えが 1 つで、彼を超えた答えは存在しないので

す。

皆様の中で彼を超え、 $n-1$ 個のまんじゅうを 1 人で 2 つも 3 つも取る者が現れるなどいかなる状況でも、あるいは、いじめの問題でも、その場に関わるすべての者の心の修行を成就させる形で最良の結果を齎す光景を描くだけの答えに辿り着いた方はいない筈です。

辿り着いたと主張する方の答えは無限角形的視点で捉えたとき、必ず彼より劣っている筈です。

疑うなら皆様全員で協議して、この人と思われるほど霊格が高い方にジャッジしてもらってください。

彼を超える霊力者（出題者兼解答者）が存在した時点で彼が大霊でないことになります。

「霊訓」では病気の治療方法は無数に存在すると書かれていますが、無限角形的視点で捉え、この課題に関わる、病人と病気の原因（癌細胞、ウイルス等々）すべてのものの心の修行が成就する光景を、彼以上に描く答えを示せる方は存在しない筈です。

疑うならやはりジャッジしてもらってください。

皆様が、これらのことが得心できたとき、無限角形的視点で捉えたならば「虹の掛け橋」に登場する課題に関して、彼が示した答えを超えることはできないと気付く筈です。

ですから、再度お話ししますが、当初の「彼が示す、人生で出会う課題、あるいは世の中で抱えている課題の克服方法の猿真似ではなく、自分なりの独創的な方法を見出したい」と主張するのは「無限角形的霊体である彼を超越します」と言っているようなものです。

彼の猿真似では不服と言うプライドは捨てるべきです。

私は、彼の教えを学ばないで惑星霊界を抜けることができた者も、恒星霊界を卒業して銀河霊界に来た者の存在も知りません。

ですから「虹の掛け橋」を学ばないで、地上に山積する難題に関し

て、これに関わるすべてのものの心の修行が成就する理想的光景を、彼以上に示すことはできません。

皆様が、彼とは別な解決方法を見出したと主張するその方法で難題に取り組んでも、無限角形的視点で捉えたとき彼の方法より必ず劣っている筈ですから、どこかの国民から不満が噴出して場合によっては收拾困難な事態を招きかねません。

皆様には確かに「虹の掛け橋」を無視する自由意志があります。

無視した上で、難題の解決方法を見出そうとするからには、銀河霊である我々に言わせれば、それは「虹の掛け橋」を学ばないで、彼の公案の全問正解をならしめるほどの愛と知恵と勇気と希望からなる善想念に基づく霊力を、自ら掴み取る覚悟が必要です。

真理や摂理の働きをすべて理解している方は、それを創造された方・創造主だけです。

無限角形的視点で捉えたとき、創造主が示した解決方法以外の方法を選択してそれを行使した結果は、方法が真理と摂理の働きとは調和しませんから、敵対するものを排除し争うような、調和と秩序のとれていない、悪意に満ちた世界が創造されてしまい悲惨です。反真理の世界です。

なぜなら何度も申しあげているように、彼が創造した世界には理想的解決方法に 2 つ目は存在しないからです。

はっきり申しあげるなら、皆様が調和と秩序のとれた世界を創造したいならば、いつしか独創的な解決方法を見出すことを断念して「虹の掛け橋」の教えを学び、それが示す実践を通してすべての方の霊格が向上された上で難問解決に当たる、これしかないことに遅かれ早かれ気付くことになるということです。

私が、ここまで皆様に語っても信じられないと言う方は別な解決方法を見出してからそう言ってください。

ここで、再び「いじめ問題」に触れます。

「虹の掛け橋」を無視すると主張された皆様、世界中の教育者たち、全員で協議し解決方法を見出し、その方法でどれだけ問題が解決の方向へ向かうのか、納得するまで試してください。

それらの方法は、いずれも真理や摂理の働きが受け入れませんから、一時的に効果を発揮しても、やがて失敗に終わり、自殺の連鎖は止まりません。

なぜなら、恒久的解決策は「人の失敗を決して笑わない・喜ばない成熟した社会・学校・家庭になること」そして、応急的な次善策はこの本で書かれている方法以外に存在しないからです。

いずれ、皆様全員で協議して「虹の掛け橋」を吟味するときがまいります。この状況は何を意味するのか、誰もが「虹の掛け橋」を手になければこの状況を作れないということです。

ここで注意して置きますが、吟味する対象は「虹の掛け橋」であって彼を吟味してはいけません。

なぜなら、大霊は「虹の掛け橋」の中に存在しているからです。

彼にマイクを向けても語りません。それはなぜか？ 語った言葉の影響が大きい^{ぎょう}ため、1行程度の質疑応答では済^すまず、語るとなると「虹の掛け橋」をすべて語る必要があり、言葉では文字の部分を語れないことを知っているから、結局『各自「虹の掛け橋」をすべて読んで考え、答えを観付けてください』となるのです。

彼にマイクを向けたり、映像に映そうとしたり、写真に撮ったり、すでに存在する写真を掲載したり、彼（「虹の掛け橋」は除く）を話題にしたり、彼を対象に記事にしたりと言う行為には必ず（自分だけの都合の良い目線に立った）悪想念が含まれていますから、真理や摂理の働きがこれを許しません。

彼によって救われたものたち（我々銀河霊も含まれます）が彼の周

りを幾重にも取り囲んで守っていますので、これらのものたちによっても阻^{はば}まれます。

そしてこの行為はとてもその方の霊格を下げる結果となり、その報いとなる苦しみの世界（霊界と来世）が待っていますのでとても危険な行為です。

何人も彼を吟味したり近づいたりと言う選択を取って、彼の静寂な世界・水面^{みなも}に向かって石を投げ込むようなことをしてはならないと、申しあげます。もし、どうしても彼と対話したい方は、自身を五霊レベル以上に高めれば、想念の世界で対話可能です。

やがて「彼の教えを試してみよう」と言う方々が現れ、一部の学校で試されます。

結果は、劇的に改善し、いじめ問題以外も学校で生じるすべての問題が解決される祝福すべき光景を目にすることになります。

ここで、皆様は悟るべきです。「真理や摂理の働きは、これらの創造主以外の解決方法を受け入れない」ということを。

数ヵ月を要するかも知れませんが、祝福すべき光景を目にした者たちの薦めによって「虹の掛け橋」が日本中で読まれるときがきます。

これは何を意味するのか、彼が大霊で、そして皆様が、地上で大霊になるための修行をしている銀河霊であると言う実相の姿を、受け入れるときが訪れると言うことです。

次第に国際問題に課題が移ってまいります。

日本だけで「虹の掛け橋」が読まれる状況に留まっていたのでは、国際問題は解決できないからです。

このため、人類は知恵を絞りあって「虹の掛け橋」を外国語に翻訳しなければならないことを知ります。

多くの翻訳者たちが集められこの課題に取り組むことになります。

当初翻訳困難と思われたこの課題がいとも簡単に解決します。

なぜなら、この時が訪れることを想定して世界中の言語を創造してきた我々銀河霊団がその知恵を皆様に送信し、これを受信できるほど、皆様の霊格がすでに銀河霊のレベルに到達しているからです。

そして、皆様は何も心配する必要はありません。理由は「第 4 巻」まで読んで実践を開始した者の背後には、真理と摂理の働きにより無数の銀河霊や恒星霊や惑星霊が常に付き添う形で、皆様のその後の人生全般に関して、サポート体制が整うことになるからです。ですから、皆様は力むこと^{りき}なく余暇を楽しみながらすべての事案を軽く^{こな}熟してゆきます。

つまり、翻訳の課題だけでなく、日本国内に存在する様々な課題が、いとも簡単に解決する理想的な光景を目にし、皆様の心の中に「虹の掛け橋」は本物だと言う確信が深まるようになります。

次第に、世界中の人々によって「虹の掛け橋」が徹底的に吟味されます。これは、世界中の人々が「虹の掛け橋」を手にするということです。

このときも決して彼を吟味してはなりません。私の忠告を無視して彼に近づくことは、ウイルス（≡恐竜）と自殺者と自爆テロリストと戦死者を含む彼によって救われたものたち（概念的世界に住むものたちを含みますので、この世界には皆様がイメージする鬼やサタンや罪や毒や敵や悪や狼男や大天使^{だいてんし}が存在します）に戦い^{いど}を挑む行為になり、その方の身の破滅を招きとても危険です。

最初は、世界中の人々に受け入れられず、彼とは別の方法で課題解決が試みられますが、それらの方法は、真理と摂理の働きが受け入れませんから、一時的に効果を発揮しても、やがて失敗に終わります。

そこで、各国で最初に「いじめ問題」から試みられ、いとも簡単に解決する理想的な光景を目にした人々によって、次第に様々な課題で「虹の掛け橋」の教えが試されます。

やがて日本が救われたような過程を経て、山積していた自国の課題と国際問題がいとも簡単に解決されてゆきます。

やがて、地上に調和と秩序のとれた世界が齎され、彼の救いの御業が成就されるのです。

以上が、皆様に知って置いて頂きたい内容です。

あーそうそう。ここで、当初の目的であったマホメットが語っている内容が五霊に相応しいかどうかの論点に戻りますと、自爆テロに向かう者たちに最大級の優しさが籠^{こも}った善想念で諭している内容は、五霊レベルの霊格者であると判断できると思います。

2 釈尊を吟味する

～迦葉^{かしょう}を侮辱^{ぶじよく}できない

次に、釈尊が語っている内容を吟味しますが、その前に、お話しして置きたいことがあります。

それは、五霊の中で釈尊だけが尊称で呼ばれていますが、彼は「友」と呼んでいます。ですが、表現の統一性を考慮して「釈尊」と書かせて頂きます。

「ひび割れた水瓶」の公案の解説をこれほど見事にされる霊体は五霊レベルであると思われます。

皆様の中で「釈尊である証拠を示して欲しい、それが示されなければこれ以降は読まない」と言う方が現れては困りますので、私としては心苦しいのですが、これはこの公案の解答者として登場している迦葉の言葉として聞いてください。

迦葉は釈尊からこの公案の奥深さを知り、釈尊に「私レベルの霊では、どんなに言葉を尽くして彼を褒め称^ほえ^{たた}評価^{しよせん}しても、所詮過小評価

なのですね」と語っているのですが、彼はこの文言を削除したのです。

つまり、迦葉は「私（迦葉）の評価は所詮過小評価、私の名前の意味は過小だ」と言ったのです。

これを書くことは迦葉を侮辱することになると考えた彼は、削除したということです。

しかし迦葉は「このことを皆様に語ってくれ」と、私に強く託してきたのです。なので、心苦しいのですがと、お断わりした上で彼がコメディドラマに現を抜かしているすきに、彼の指を借りて書かせて頂いたわけです。

「迦葉の名前の意味が過小である」ということを大霊から許されているのは迦葉本人だけなのです。この迦葉が釈尊と呼ぶ方は釈尊本人しか存在しません。これで納得して頂く他ありません。

以上で釈尊が語っている内容の吟味を終わります。

3 愛の光を浴び霊格が向上し観える世界が一変する

私は、彼の前に立って長い時間皆様に語り掛けてきました。

「第 23 章」でシルバーバーチが「こうして今彼と対話している私は、彼から溢れんばかりの愛の光を全身に浴びながら、踊りの達人の手足を借りて踊っている心地なのです」と語っています。

私も同じです。「愛を受け取ったものは霊格が向上する」という真理により、私は皆様に語り始めたときの霊格とは比較できないほど向上・進化したようです。

観える世界が一変し、当初「私には彼とネイムの霊格は同じレベルにしか認識できないことを正直に申しあげます」と言いましたが「彼は大霊・ネイム等宇宙霊の中の第一霊である」ことがはっきり認識できるようになりました。

靈界と宇宙は彼とネイムの共同作業でなく、彼によって創造されたのです。

4 銀河靈レベルの靈力を取り戻されてからの世界

この靈眼で捉え、皆様が「虹の掛け橋」に書かれている教えに基づいて実践され、銀河靈レベルの靈力を取り戻されてからのお話しをします。

このレベルの靈体になりますと、靈界との通信は靈媒を介さない直接通信による我々銀河靈との対話が可能になります。

そうなりますと、数学、物理学、化学、生物学、天文学、地学、神仏の教え、真理、摂理の働き、文学、芸術等々に関して我々銀河靈の知識がすべて地上に届けられるようになりますので、たとえば、数学や物理学や化学や生物学や天文学や地学に関しては皆様が、経費を掛けて調査したり、実験したり、研究したりする必要がなくなります。

皆様はこれらに関する知識をすべて映像と言葉によって受信できるようになるからです。

我々と皆様は恒星靈時代に、宇宙に存在する全銀河（系）に散ばって降誕して、数十億年を掛けて探求し、これらの学問は学び尽くしているのです。地上に再生した途端にその記憶が消失しているだけで、我々との通信により記憶が蘇ってくるのです。すでに実証・確認ずみのことに関して再度お金や時間を掛ける必要はありません。

軍事費は極限レベルまで削減されやがて必要なくなります。

これらによって浮いた予算は、貧しい人々や、国や地方公共団体の赤字解消のために有意義に使われます。

神仏の教えや真理や摂理の働きに関しても、我々と同等の知識を身につけ、銀河靈界では彼とネイム以外に法を説く者が存在しないのと

同じように、地上でも彼の教え以外の法を説く者は、誰からも注目されないため姿を消してゆきます。やがて、現在行われている宗教的行事は何の意味も存在しないことと、先祖供養とは周りの生命体を幸せにする行為であると言う真理が正しく認識され、教会や寺院、神社等の宗教施設も必要なくなります。疑問に思ったことは、その想念を我々に送ってくだされば、答えが速やかに返信されます。

文学や音楽・芸術についても我々と同等レベルに引き上げられ、心ゆくまで素晴らしさを味わうことができます。

皆様の霊体と肉体は、毎日再生が繰り返される形で向上・進化し、身につけた銀河霊力・治癒力によっていかなる病気も完治させることが可能になり、やがて病気そのものが地上から姿を消し、医療、薬、ヒーリング、手かざしの業も必要なくなります。なぜなら、病気や悩みの存在理由が、皆様に真理と摂理の働きを理解・実践して頂くためですので、皆様がこれらを学び尽くせば、病気や悩みは存在理由を失い地上から消えてゆくわけです。これが病と悩みの「終息点」です。

死は単に肉体を脱ぎ捨てて霊界に戻るだけで、その直前の介護の必要性や苦痛もなくなります。

ここで、今の皆様には理解困難かと思いますが、誤解を恐れず申しあげます。皆様自身が直接、霊界の銀河霊たちから、光り輝く銀河霊界の素晴らしさ・光景を受信できるようになり、かつ「いつ（＝今）死んでも自分は必ず天国（銀河霊界）に入れる」と、確信できるレベルまで徳を積んでおくと、地上での修行を終えて銀河霊界へ戻れる日、死の恐怖がなくなります。このような方は、地上での修行生活も楽しいし、霊界へ戻れる日（＝死（^{ろうすい}老衰等の自然死が理想ですが、霊格が向上してくると、どのような死も受け入れることができるようになります。))も楽しみになるのです。ですから、天国へ入れるかどうか不安がある方は、死の恐怖を覚えることになりますので、今のうちに安

心できるレベルまで、罪を償い、かつ「これでもかと言うくらい」徳を積まれることをお勧めします。それに、この安心感が治癒力をさらに高めてくれます。

皆様からの愛の善想念に触れ、ウイルスは他の生命体の役に立つ微生物に、癌細胞は免疫細胞に変わり、皆様の田畑を荒らす動植物は、有用性が認識され地上に無駄なものは存在しないことが理解され、過剰に繁殖する動植物はいなくなり、その生息数は、宇宙霊たちによって、常に調和した状態で維持され、皆様が食している動物たちは、その必要性が薄らいでゆくに連れ消えてゆき、環境汚染は理想的なりサイクル技術の開発等により劇的に改善され、地球はとても住み易い惑星に変わります（詳細は「第6巻」以降で説明されます）。

ここまで読まれて「虹の掛け橋」が世に広まったら「自分は職を失うことになってしまう」と言う心配は必要ありません。なぜなら、この方々には、就くべき職が映像で銀河霊界給職当番（2019年1月1日～2116年11月4日は、ジャンヌさんとモーゼ君と釈迦君とシルバーチちゃんたちの銀河霊団）から送信され、かつ生活に必要なものは真理と摂理の働きを担う形で銀河霊界給食当番（同期間は、テレサさんとマホメット君とイエス君と私(バーバネル)たちの銀河霊団）から送られ満たされるからです。（でも、自分の力・努力で職を見つけ、スキルを磨いて食べてゆくのが基本です。）

やがて、皆様は、彼との直接対話が可能になり速やかに白金律を悟ることができ、とても凛々しい霊体が変わってゆきます。

このような過程を経て我々と皆様は同時に大霊になってゆくのです。

5 成就点を迎える

では、地上が成就点を迎えるのはいつなのか？

彼によって「第4巻」の最終原稿に「アブラハム」と「イサク」の名前が書き加えられたとき（2016年11月4日13時11分17秒）、そこを起点として動き出した時計があります。この時計は霊界の内奥に在って、第一霊レベルに到達した者のみが観ることを許され、そして白金色の光を放ちながら遅れることも早まることもなく正確に時を刻んでゆきます。彼以外、止めることができない「絶対時計」です。

「虹の掛け橋」の受け入れを拒否する者や国が続出しようと止まりません。

拒否国は、地上時代に「虹の掛け橋」を無視した者や拒否者たちがこれを世に広めようとして再生してくる場に変わり、必ず読まれるように摂理が働きます。

そして彼が皆様に約束した、人の一生の時間レベルと言う100年（2116年11月4日13時11分17秒）を「絶対時計」が刻んだとき地上は成就点を迎えます。

（私 当たり前ですが、私の手に負えないときは、成就点はこないかも。このときはイコール、私の霊力では、人類の絶滅を止めることができないということです。）

6 大霊となつてからの世界

バーバネル ここからは、我々（皆様も含まれます）が大霊になつてからのお話しをします。

ネイムが我々大霊の中の第一霊となり、霊界と宇宙を創造されます。そして、そこに存在するすべてのもの（生命体、非生命体である物質、概念的世界のものたち）を大霊へ導いてゆきます。

我々はこれをサポートするネイム霊的役割を果たすことになります。

では、第一霊はどのような世界を創造するのか？ それは彼が創造した世界と瓜^{うり}2つの世界です。

無限角形的世界は無限角形的視点で捉えたとき、1つしか存在しないのです。

つまり、彼の創造した世界を超えた無限角形的世界は存在しないから、彼が創造した世界と瓜2つの世界になります。

そして、無限角形的真理と摂理も彼が配したもの以外は存在しません。

更にすべてのものを確実に大霊に導ける方法は、彼が示した無限角形的方法＝「虹の掛け橋」以外には存在しません。

第一霊は彼と全く同じ設計図である真理と摂理を配して宇宙を創造するわけですから、彼の創造した世界と瓜2つになるのです。

皆様はこれを聞いてがっかりなさいましたか？

では皆様の中で、彼とは違った独創性を持った世界を創造できる方がおられるのでしょうか？

そのような世界を創る設計図を描けるようになるのに、どれほどの年月を必要とするか想像されればわかることですが、無限の年月を要することになり、独創性を持った世界は無限角形的霊体の彼を超越する世界ですから、そのような世界を望むことは、完全性を求め成就点の存在しない世界に入る行為です。

皆様には耳に痛いかも知れませんが、真実ですので、はっきり申し上げます。耐えて聞いてください。第一霊は、前第一霊（彼）の怒りに触れた者たち（たとえば、己と家族と仲間と自国の幸せのみをどこまでも追及し、敵対するものたちを排除・殺し続けてしまった者たち）と、前第一霊の霊力をもつてしても救えなかったものたちが形態をとっている、霊界と宇宙に漂う引き取り手のいない想念（たとえば、悪意と、残忍さと、独占欲と、慢心と、無関心と、隠蔽^{いんぺい}と、改ざんと、

偽装と、後悔と、神や国王や No.1 への崇拜心等々）と、塵^{ちり}を集め、彼から伝授された無限角形的靈力を行使して無限角形的真理と摂理を配し、無限角形的靈界と宇宙を創造します。

それは彼が創造した世界と瓜 2 つですから、靈界（天国と地獄）と太陽と地球と月と資源と食糧と刑務所とカラオケのマイクが存在する、本能的に敵対するものたちを排除・殺し続ける悪意に満ちた靈性をもったものたちにとって、理想的な、期限付き修行道場です。

そして、これらのものたちを「敵対するものたちに愛を注ぐことができる善想念に満ちた大靈」に導くために、彼がとった無限角形的方法を用います。

第一靈は生命体を大靈の一步手前の銀河靈まで引き上げます。

そして、その銀河靈たちを、靈界と、人間の形態となって生まれることになる物質界の地球に、靈界→地球→靈界→地球と言うように交互に再生させます。

第一靈は銀河靈たちに、すべてのものを確実に大靈に導ける、彼から伝授された無限角形的方法を説明します。

そして、第一靈は、モーゼと釈尊とイエスとマホメットとシルバーバーチ等々を選任し、地球に「聖書」「仏典」「コーラン」「靈訓」を届け、かつ「靈訓」には「虹の掛け橋」を否定する相違点を盛り込みます。

機が熟したとき、自ら地球の日本にウイルスレベルの靈格で人間の形態となって降誕します。名前は「中島孝」。ただし、彼と一致しているのは名前だけで、風貌^{ふうぼう}、声、性格^{しこうひん}、嗜好品、趣味等々は異なります。

第一靈は、彼がとった行動をできるだけ模倣^{もほう}しながら行じます。つまり、悟った内容を「虹の掛け橋」（ペンネームは宇都宮大地）に書き、そこに「公案」を盛り込みます。できあがった「虹の掛け橋」は皆様をご覧になっているものと概ね同じです。が、そのときの第一靈たち

によって少しずつ修正されてゆきます。

これによって彼が可能な限り多くのものを大霊にしたように、第一霊の救いの御業は成就し、救った多くのものたちからの感謝の念に包まれながら喜びに満ちた世界で、やがて地上に降誕する第一霊に愛を注ぐ始原的第一霊として活動することになります。

次は、我々が第一霊となり、同じように前第一霊（ネイム）の怒りに触れた者たちと前第一霊の霊力をもってしても救えなかったものたちが形態をとっている霊界と宇宙に漂う引き取り手のいない想念と塵を大霊レベルに引き上げてゆき、救った多くのものたちからの感謝の念に包まれながら喜びに満ちた世界で、やがて地上に降誕する第一霊に愛を注ぐ始原的第一霊として活動することになります。このように「第一霊」は歴代の「始原的第一霊たち」に温かく観守られているわけですから、安心してひたすら行じてゆけば良いのです。

これを聞かれて「彼の猿真似をすれば良いのであれば簡単だ。苦労して大霊レベルにならなくとも、今の霊格レベルでも「虹の掛け橋」を観ながらすべてのものを救える」と思われた方が居られたとしたら、それは大間違いです。それはなぜか？ 頭で理解できていても、まだ魂の深奥では十分理解できていないからです。

それと、ウイルスレベルの霊格で生まれ、人の一生の時間レベルで、自身を大霊レベルに引き上げ「虹の掛け橋」を書き、すべてのものを救ってゆく、このために第一霊はどれほどの血と涙の修行をされたのか、人類は知らないからです。

その修行レベルを確認したい方々は、皆様で相談してこの人こそ世界一の霊格者・修行者と思われる方に「虹の掛け橋」を読んで頂いて、そして問うてください。「あなたは、第一霊を超えた霊格者・修行者・知者ですか？」と。

高い霊格者・修行者・知者であればあるほど、己の未熟さを知って

いますから、このような方が「虹の掛け橋」を読まれたとき「公案」にことごとく躓^{つまず}き、このような「公案」を創造された方の偉大さと、修行レベルと、己の未熟さを確認するだけです。

私は、彼の前に立って「私は、霊格者ですとか、私は、こんな立派な修行をして多くの魂を救ってきた知者です」と、主張した霊体の存在を知りません。

「虹の掛け橋」に書かれている第一霊の修行は、大霊の中の第一霊だけが成就可能な最難度レベル・飽和点なのです。

独創性を加えたいと思い、彼の修行に髪の毛1本ほどの修行を加えたとき、飽和点を超え風船が破裂するように第一霊は破綻し、すべてのものを救うと言う計画は水泡^{すいほう}に帰してしまうのです（そうならないように「始原的第一霊たち」が観守っているのです）。

我々は、彼の猿真似では飽き足らず、何かを加え独創性を持たせたいと言ったプライドを捨てるべきです。

大切な事なので再度強調しますが「虹の掛け橋」と内容は全く別で、かつすべてのものを救う無限角形的方法を記した本を創造することは、無限角形的霊体である彼を超越することに等しい行為ですから、飽和点を超えそのような者は破綻します。

我々は、彼が「虹の掛け橋」を示してくれたからこそ大霊となり、かつ救った多くのものたちからの感謝の念に包まれながら喜びに満ちた世界で、永遠（1兆の1兆乗年以上の無限の時間）に過ごすことができるようになるのです（そこでは、カラオケやコメディ映画やチューは「私にはちょっとね」とおっしゃられる方は、好きなことを選択すれば良いわけですから、カラオケやコメディ映画やチューの苦しみの世界が第一霊界で待っていると言った懸念を抱く必要はありません。そうで（拒否権が）なければ、第一霊時代の苦労が報われたとは言えませんので。ちなみにネイムはカラオケのマイクを握りません。ネイ

ムの趣味は絵を描くこととハイキングです。ネイムは私に言っていました、『「虹の掛け橋」の公案の中に「カラオケ」を題材にしたものが登場した場合はカラオケを歌いますが、そのときは、銀河霊たちは私の歌の上手さに驚きますよ』と)。

確かに我々は、彼の霊格レベルに到達します。しかし、彼の霊格が飽和点ですから、何人も超えることはできないのです。

霊界と宇宙に存在するすべてのものを大霊に引き上げる霊力を身につければ、もう十分ではないでしょうか？ それ（飽和点に達した霊力）以上、何を求めるのでしょうか？

我々は謙虚になって「虹の掛け橋」を読み、そして「模倣させていただきます」と言って実践すべきです。

このようなことから「虹の掛け橋」は未来永劫第一霊たちに引き継がれますから、

彼は「虹の掛け橋」の中に永遠に存在し続けます。

そして「虹の掛け橋」に「創造主＝始原的第一霊たち」が内在しているのです。

私 ここで、私から補足説明させていただきます。

引き取り手のいない想念（たとえば、悪意と、残忍さと、独占欲と、慢心と・・・）や宇宙に漂う塵に、第一霊の善想念が注がれて、霊界と物質界の宇宙が創造されていますので、霊界と宇宙に住む、すべてのものは、悪想念（＝生命（活動）エネルギーがゼロの状態）に、善想念が注がれて生まれてきたと言えます。

よって、生命エネルギーの源は善想念です。ですから、善想念を向上・発露^{はつろ}させてゆくほど、and 第一霊や、宇宙霊や、銀河霊や、他の生命体から、愛や感謝の善想念を受けて・吸収してゆくほど、生命エネルギーも向上し、想念→物質→菌類→植物→動物→人→惑星霊→恒

星霊→銀河霊→大霊（宇宙霊）→第一霊に進化して、苦難を乗り越え、
光輝、喜び、平穩、平等、友愛、平和、調和と秩序、勇氣、希望に満
ちた世界に身を置くことができます。

逆に、悪想念が増大して（発露させて）ゆくほど、and 第一霊や、
宇宙霊や、銀河霊や、他の生命体から、嫌悪感などの悪想念を受ける
ほど、生命エネルギーが萎んで、第一霊→大霊（宇宙霊）→・・・・・・
→物質→想念→引き取り手のいない想念や宇宙に漂う塵に退化して、
挫折し、暗黒、苦しみ、怒り、差別と格差と独裁と独占、憎悪と暴力
といじめ、紛争と破壊と殺戮、犯罪と混乱と暴動、恐怖、飢餓と絶望、
に満ちた世界に身を置くことになってしまうのです。

ですから、ここだけの話と言うことで他言しないで頂きたいのです
が、お得意様の皆様にだけ、こっそり、善想念を高める and 悪想念を
小さくするよう心掛ける・訓練することを、お勧めしたいのです。

第 35 章

吟味すべき対象は「虹の掛け橋」であって

彼を吟味してはならない

1 第一真理・摂理と完全死

バーバネル ここで皆様に最大の忠告をしなければなりません。

それは、皆様の心にやがて芽生えてくる「彼が始原なる第一霊なのかどうか？」という興味です。つまり『彼の前に第一霊が存在し、この方が「虹の掛け橋」を創造され、彼はこれを模倣しているだけなのかどうか？』という興味です。

このような興味を抱いてはいけません。

彼はこのことに関し一切言^{げんきゅう}及しません（多分？）。

このような興味は彼を吟味する行為で、私が再三強く忠告してきたことなのです。

吟味すべき対象はあくまでも「虹の掛け橋」であって彼ではないのです。

「彼を吟味してはならない」。これが霊界と宇宙を貫く「第一真理」なのです。

皆様が得心されるよう最大の注意を払いながら説明します。

この興味は止^{とど}まることを知らず無限に広がってゆく欲望です。

そして、彼に興味を持つようになり彼の人生を吟味しはじめます。

すると、衝撃的な事実遭遇し、彼に幻滅し「虹の掛け橋」に疑念を抱きます。

この疑念に誘発されて、知った内容を記事にして世間に公表し始めます。

この記事を読んだ者が彼に失望し「虹の掛け橋」への疑念の連鎖は止まることなく世界中に広がってゆき、やがて彼の霊力をもってしても決して救えない世界が創造されてしまい、すべてのものを大霊に導くと言う彼の計画は挫折することになります。

したがって「このような興味を抱く者は救わない」と彼は言っているのです。

このような者まで救ってしまつては、彼の計画は成就されないからです。

これが、彼が、すべてのものを救うと言う完全性を捨て、無限角形的霊体に留まっている理由です。

宇宙霊（大霊）からウイルス、そして物質から概念（想念）までのすべてのものが存在し得るのは、彼（第一霊）から注がれる愛のエネルギーによるお陰なのです。

彼の逆鱗^{げきりん}に触れ彼から愛が注がれなくなった霊体には「完全死」が訪れます。

このものは、活動が停止しますので、霊界にも物質界にも入れません。生まれることも死ぬこともなく、喜びも苦しみもいかなるものも存在しない「無」（正確には「時間」と「空間」のみ）の世界に入ってゆきます。このような形で「無」なる空間が形成され「完全死」を迎える霊体たちによって、この空間が少しずつ押し広げられてゆきます。

彼がウイルス霊レベルで降誕したのは、このような低い霊体も大霊に引き上げるためです。そのためには、ウイルスと対話しなければならないのです。対話するためには波長・霊格をそこまで下げる必要があります。そして寄り添いながら大霊に引き上げるのです。大霊の中の第一霊のみが成就できる救いの御業の飽和点です。

ウイルスレベルに身を落とした者は、ウイルスと同じ行動をとります。つまり際限なく貪り続け宿主を滅ぼしてしまう形で己も滅ぶよう

な悲惨な行動です。

彼は「虹の掛け橋」の中で、自身や私や五霊たちを通して「このような行動あるいは褒められない行動をとった」と告白しているのです。

だから、彼の人生を吟味するまでもなく、皆様が想像できる最大級の悲惨な結果を招くようなウイルス的行動をとったことは明らかなのです。

私 そのような行動をとった記憶が私にはないのですが・・・。自己評価では、平均点以上の好少年・青年だったと思っていますが。

五霊たち 確かに。ここまで酷くはなかったかも。でも、褒められないお馬鹿なことを、いくつかしていましたよ。

私 うーん・・・。そう言われると・・・確かに・・・反省しているニャン。

五霊たち あははは。許してあげるニャン。

バーバネル 「完全死」が訪れるのは、ここ（「第4巻」）まで、読んで「第一真理」の存在を知りながら、これを犯した者にのみです。

「虹の掛け橋」を全く読んでいないもの、あるいは「第3巻」までしか読んでいないものが「第一真理」を犯した場合は「完全死」は訪れません。

それは「第一真理」を守ろうとする「摂理」が働くからです。

これが「第一摂理」です。

調和と秩序を維持しようとして働く、霊界と宇宙で最大の愛のエネルギーを始原とする摂理です。

具体的に皆様がイメージできるよう、次のような事例でご説明します。

この者が、彼の顔写真を撮ろうと言う悪想念を抱き彼に近づこうと

すると、彼によって救われたものたちにより阻止されます。

途中で怪我^{けが}をしたり、病気になったり、乗っている物が故障したり、渋滞に巻き込まれたりして、決して彼には近づけないよう「第一摂理」の働きを担う形でこのものたちが介入するからです。

このとき悟って欲しいのです。

「彼に近づけない状態にしてくれたお陰で、宇宙で最大の罪（「第一真理」）を犯さないで済んだと言うことと、阻止してくれたこのものたちの愛の働きであること」を。

やがて、この者が、写真に撮ったり記事にしたりできるときが来ます。

それは、地上が「第4巻」まで読み悟った者たちで満たされ、彼が本物の大霊であることを確信した想念と、なぜ彼がウイルス的行動を取ったのかその理由を得心している想念と、「虹の掛け橋」に基づく修行を実践しようと言う揺るぎない想念によって、この者の報道記事が相手にされなくなったときです。

つまりこの報道によって、地上に齎された調和と秩序が乱されることがないため「第一摂理」が働く必要がないからです。

次に「第4巻」まで読んだ者の場合について説明します。

先ほど私は「彼がウイルス霊レベルで降誕したのは、ウイルスに寄り添いながら大霊に引き上げるため、これは大霊の中の第一霊のみが成就できる救いの御業の飽和点です」と話したように、彼には無限角形的善想念と悪想念を発揮できる霊力があるのです。

「第4巻」まで読んだ皆様もやがて、彼と同等レベルの霊力に限りなく近づきます。

この者が、彼の顔写真を撮ろうと言う悪想念・霊力は限りなく彼の霊力と拮抗^{きっこう}してきます。欧米で語られているように、聖書を学び尽くしている墮^だ天使（サタン）の霊力が神に次ぐ2番目の者のように。

しかし、緑金律までしか伝授されていない今の皆様が、想念の絶対値（|（±・善悪）想念|）で彼の善想念を超越することはできませんので、皆様が発揮できる最大級の悪想念（たとえば、彼に「1^た足す1はいくつですか？」と問う悪想念）は、彼の善想念（微笑みながら「友よ。2です」と彼が答える映像）によって完全に打ち消されます。つまり、この者が写真を撮ろうとすると「第一摂理」の働きを担う宇宙霊から概念的存在のすべてのものが総力を挙げて創造した愛の善想念、イコール彼の善想念によって阻止されます。

仮にこの者が白金律まで悟ったとしても、この場合は、己の霊格レベルを正しく認識できますので、自分が最大級の悪想念を抱いたとしても「第一摂理」の働きを担う形で、ネイムの愛によって阻止してもらえます。

したがって、皆様の中で「完全死」を迎える方はいません。

ネイムも我々銀河霊も、聖人を暗殺した者たちや、罪なき民を苦しめた権力者たちや、罪を犯しながら自首することなく逃げ切った者たちや、法廷で偽証し通した者たちや、人類の滅亡時期を予言した者等、平和と調和と秩序を壊し、後世・良い子たちに著しい悪影響を残した者たち等、彼の怒りに触れた者たちが地上の寿命が尽きた瞬間に宇宙の塵に化した現象を観たことがあります。「完全死」したものを観たことはありません。

それでは「第4巻」まで読んでいるものの中で、誰も「完全死」を心配する必要がないのかと言うと、それは違います。

宇宙に1人だけいるのです。

皆様は誰だと思いますか？

答えは「彼」です。

つまり、彼自身が己を吟味し始め「自分こそ始原なる第一霊である」と言う宇宙で最大の悪想念を抱いたとき「完全死」が訪れるのです。

彼も、皆様同様、地上に降誕した時点で霊界での生活の記憶は消滅するのです。今、彼が取り戻している霊界の記憶は、彼が霊界にいたとき我々に語った内容が彼に戻されていること＋皆様を大霊に導くために必要な内容に限ってです（これは、地上に降誕した彼の魂の深奥に秘められているもので、霊界時代、我々にも語らなかった深遠な真理や摂理の働きに関する法則等です）。霊界に戻って初めて彼のすべての記憶が蘇ってくるのです。

したがって、地上にいる今の彼に「己が始原なる第一霊かどうか」認識できないのです。ネームも我々も、彼より前に存在していませんし、彼が霊界にいたとき、このことに言及したことはありませんので知りません。今、この時点で知っているものは存在しないのです。

もし、彼の他に、始原なる第一霊が存在していた場合、彼が「自分こそ始原なる第一霊である」と言う悪想念を抱いたとき、この始原なる第一霊から注がれている愛は^か涸れ果て、活動は停止し彼に「完全死」が訪れます。そして創造主の完全死は、霊界と宇宙、そしてネームから概念的存在すべてのものの消滅・完全死へ繋がっているのです。

したがって、皆様が彼に「あなたは始原なる第一霊ですか？」と問うても答えは返ってこないのです。と同時にこの行為は己だけでなくすべてのものたちを「完全死」の危険に^{さら}晒すことになり、とてもおろかな行為です。

2 「虹の掛け橋」が第一霊たちに引き継がれる理由

これらのことから、皆様に悟って欲しいのです。

我々にも、第一霊として地上に降誕したとき、必ず心に芽生えて来る「自分こそ始原なる第一霊であるのかどうか？」と言う興味・慢心・悪想念を乗り越えなければならない試練が待っているのです。

このようなことから「虹の掛け橋」は未来永劫第一霊たちに引き継がれなければならないのです。

私は「虹の掛け橋」にはこのような「使命」があることが理解できた今、霊格が低くかりし頃に皆様に語った内容について、彼から指摘を受け修正すべき箇所が存在することがわかりました。

私なりの究極的善想念をもって語ってきたつもりでしたが、彼から^{きゅうだいてん}及第点を頂けなかったようです。

どこを修正すべきか。細かい点については触れる必要性を感じませんので、重大な2つの箇所に絞ってお話しします。

1つ目は、

「第31章 2」に記載した、

『地上の「虹の掛け橋」のように誤字や脱字もなく幼稚な文章は霊界の偉大な作家たちによって修正されて、より進化した文言で書かれ内容も充実し、かつ芸術家たちにより映像も挿入されているのです』
と言う箇所です。

「銀河霊界で行われているこのような行為は止めるよう」言われました。

理由は2つ目と関連しますので、一括して説明します。

2つ目は、

「第33章 4」に記載した、

「虹の掛け橋」はどこまでも掘り下げて悟れる無限性（無限角形的要素）を持っていますので、皆様が「虹の掛け橋」の字面を超越した内容を善想念で際限なく書き加える自由意志の行使が認められていま

す。

です。

『「虹の掛け橋」の字面の表現を何とかして統一性を持たせたいと考える。これを止めるよう』言われました。

たとえば「充分」と「十分」は同じ意味です。統一しようとするれば、どちらかの文字は消滅することになります。

彼は「虹の掛け橋」が皆様に絶対視されたとき、消滅した文字も命を失うことになると言っています。

つまり彼は、やがては「虹の掛け橋」に捕らわれる（絶対視することなく、各自の理性に照らし合わせ・吟味しながら、読み手の心が無限に広がってゆくことを願っているようです。

彼は、捨てがたい「充分」と「十分」に活躍する場面を平等に与え、これらに生き甲斐と言う命を吹き込まれたそうで、彼は表現を統一することよりも大切なものを大切に扱いたいと言う思いで、使用すべき文字を選択したと言っています。

また「第1巻」では「花々・桜が咲き乱れ」と書かれ「第2巻」以降では「咲き誇る」と書かれています。表現を統一しようすると、前者はあまり品が良くありませんので、恐らく後者が選択される可能性が高くなります。

そうすると、この文章で彼が皆様に語り掛けている内容が明らかにされない内に、消滅する危険があります。

それは、真理や摂理の働きには、調和と秩序を維持しようとする側面があり、この調和と秩序から最も遠い存在が「混乱」の「乱」です。この「乱」に活躍の場面を与え、命を付与されたそうです。これが、彼が文字に向かって放射している愛の基本姿勢です。

しかし「乱」を多用し過ぎては、愛の平等性の^{きんこう}均衡が保てなくなる

ため「乱れ」と「誇る」を平等に愛した・使用したと言っています。

ですから、彼から「虹の掛け橋」の修正は明らかな誤字・脱字に留めるべきであると指摘されたのです。ただし芸術家たちによる映像・図画等の挿入は、むしろお願いしたいそうです。

また、このようにすべての文字を等しく愛し命を付与すると、すべての文字から感謝の想念が送られ、このエネルギーが言葉の無限性を引き出す原動力になると言っています。

そして、このようなことが理解できたとき、皆様は「本当に美しい文章とは、大霊から概念的の世界に存在するものを含めすべてのものに感動を与えるもの」だそうです。

それが理解されたのちに「第 1 巻」に立ち返って読まれると、一見幼稚な表現力しか発揮されていない文章であっても、その内奥^{ないおう}に存在している、真に美しい文章が姿を現すことを皆様が理解できる日・涙を流される日がやがて訪れることを願っていると言っています。

彼のチェックが入り「第 4 巻」は無限角形的本になりました。ページ数は少なくとも、1,300 円（税別）は銀河霊界の感覚では安いと思います。なぜなら、この本を創造するのに彼は数千億年を要していますので、 $[1.3 \text{ 円} \times \text{販売部数} / \text{数億年} / \text{出版関係者数}]$ が彼の労働単価です。彼と五霊と天女たちが舍利子^{しゃりし}から滞納^{たいのう}している数時間のカラオケ代の方が高いわけですからね。

私が皆様に語るべきことは語り尽くし、彼（孝ちゃん^{たか}）から「お疲れさまでした」と言われ充実感で満たされています。

地上に成就点が訪れ、皆様が、真の大霊界＝第一霊界で、互いに愛と知恵と勇気と希望の善想念を注ぎ合う人生の素晴らしさを味わいながら日々を過ごされることを祈りつつお別れします。

第 36 章

「^{シエシエ}謝謝」は悪想念を拭き取るウエットティッシュ

1 ^{きっきん}喫緊の課題の解決方法

私 ここからは、私が語ってまいります。

ここまで読まれた皆様に多くを語る必要はありませんので、次の 3 点に課題を絞って語ります。

なお、これらの課題はいずれもとてもデリケートな問題を抱えていますので、重複文章が連なることをお断りします。

1 つ目の課題です。

I S（イスラム国；敵対する国や民族も同じ）問題です。

神仏の目で捉えた解決方法は 1 つです。それは「（「やったことは必ずやり返される」と言う「^{のが}逃れることのできない真理と摂理の働き」により）空爆は、未来の自分や家族や恋人や友人や親族の頭上（^{ずじょう}住居）に、破壊・恐怖・苦しみ・^{わざわ}災い・絶望・不幸と言う爆弾を落とすこととイコールですから、爆弾ではなく、これに相当する金額の食糧・水・衣類・医薬品等の生活必需品（＝愛・喜び・希望・幸せ）を、I S 地域の空き地に投下する」ことです。

「そんな簡単な方法で解決するのか？」と疑問に思われる方、あるいは「身内の命が奪われているのに、今さらそんなことはできない」と言う方が多いことも存じていますが、この課題を通して「最も敵と認識している者を愛する実践を、人類に課している」のです。ですから、これ以外の方法では解決できないよう、真理と摂理と宇宙ができあがっていると申しあげます。では説明を続けます。

多くの戦争の発端は「自国の貧しい^{きょうぐう}境遇を打開する手段として、周辺国の財産を奪い取りながら豊かになろうとしている」故です。

これに神（や国王など）の御旗^{み はた}が掲げられ動機付けられているだけです。

ですから、I Sが必要としている物資を世界中から集めI Sに注ぐ、これ以外の解決方法は存在しません。

やがてI Sが警戒を解いてくれる日が訪れ、上空からではなく地上から供給できるようになります。そのような段階に達したならば、世界中の皆様で協力しながらライフラインの整備に着手（メンテナンス方法を含む建設技術も伝授）してください。当初は世界中が貧困^{あえ}に喘いでいますので、可能な範囲でやむを得ませんが「虹の掛け橋」が世界中に広まるに連れて予算の使い道が精査され、当該事案へ注がれる予算の重要性が徐々に認識され、軌道に乗ってきます。

I Sは、生活必需品やライフラインが満たされれば、他国にこれを求め戦争を起こすこともなくなります。

そして「愛を注がれたものは霊格が向上する」と言う真理によってI Sの方々は目覚め、他国と協調する道を選択され、I S問題は解決します。

この解決方法を行使し、問題が解決され「虹の掛け橋」を徹底的に吟味し、かつ「第4巻」までに書かれている真理の存在を確信してから2つ目の課題に取り組んでください。そうすればこの課題は15分で解決できます。

未解決のまま、あるいは2つ目の課題解決を先行されては、どちらも共倒れしてしまいます。

2つ目の課題です。

ずばり申し上げます。中国と周辺国との領有権問題です。中国人の方々は気を悪くしないで耐えて最後まで読んでください。

この問題は、I Sの応用問題と言うわけにはゆきません。

つまり中国に生活必需品やライフラインの予算を注ぎ続けても一時的には功を奏しても究極的には解決しません。なぜなら、中国はすでにこれらのものは概ね満たされていることと、この問題を引き起こしている根本的原因が I S 問題のそれとは異なるからです。

そこで、この問題を生み出している根本原因を神仏の目をもって突き止めなければなりません。

それは「どこまでも軍事力・国力を増大させようとする力、世界一豊かな国あるいは完全性を求める力、異常に発達した自己向上欲」が原因です。このため、周辺の国々や人々からの不満の声を強力な軍事力でねじ伏せる実績が、不幸にも、中国人にとって、世界一への達成感になっているのです。しかし、これには、軍事力が脆弱^{ぜいじやく}だった時代に、複数の、とつても面積が小さな国々に、大切な国土を占拠^{せんきよ}され惨い^{むご}仕打ちを受けた背景があることを、世界中の人々、特に占拠に関わった国々は理解することが大切です。

では、この力を抑えるには世界中でどのような行動をとれば良いのか。

答えは「世界中で謝^{シエシエ}（ありがたいの意）と唱^{とな}えること」です。

そんな簡単な方法で解決するのか、あるいは軍事力削減とどう関連してくるのかと疑問に思われる方が多いかと思いますが、私を信じて最後まで付き合ってください。

説明を続けます。

ではどのように唱えるのか。

イメージの世界で、幼児期になって、すべての中国人に向けて「シエシエ」と唱えます。

少年（少女）期になって、すべての中国人に向けて「シエシエ」と唱えます。

青年期・壮年期・老年期・終末期になって、すべての中国人に向け

て「シエシエ」と唱え、イメージの世界で人生を閉じます。

所要時間は 10 分です。

つまり、皆様は人の一生の時間レベル 100 年をすべて、中国人に向けて「シエシエ」と唱えながら過ごし人生を閉じたのです。他のことは一切しなかった、そんな人生です。

「シエシエ」この言葉から生み出された善想念で宇宙が満ちてゆきます。

この光景を観ている天から皆様お 1 人おひとりに、膨大な福德が届けられます。

この福德を自ら受け取るのではなく、すべての中国人が幸せになって頂くために使ってくださいと天に祈ります。

やがて、すべての中国人と皆様が共に天から注がれる光輝に包まれ、地上に存在するすべての^{わだかま}蟠^とりが解けてゆきます。

所要時間は 5 分、合計で 15 分です。

この時点で、一見すると地上は何の変化も起きていないかに観えます。が、そうではありません。確実に変化しているのです。

では、何が変わったのか？

答えは「皆様の心の紋様が変わった」のです。

「第 4 巻」をここまで読まれ、かつ 10 分間「シエシエ」と唱えることによって、皆様の心の中に存在していた悪想念が可能な限り拭き取られたのです。「シエシエ」は悪想念を拭き取るウェットティッシュだったのです。

皆様の中で、戦場へ向かわれる方、あるいは核ミサイルのスイッチの前に立つ（座る）方はいません。「虹の掛け橋」が多くの方にここまで読まれれば読まれるほど、戦場へ向かう方は少なくなるのです。やがて、戦場へ向かう方はいなくなります。その道具である武器は必要でなくなります。

こうなると、中国で軍事力を増大させようとする力は消えてゆき領有権問題は消滅する形で解決します。

霊格が銀河霊レベルに向上すると、地上の国土（地・海・空）は地上の全生命体の共有財産であることと、目くじらを立てて領有権を主張し合うと、核戦争＝人類絶滅に繋がっているばかりでなく、敵意と悪意に満ちた不幸な世界（家庭・学校・職場・国家・未来）が自動的に創造されてしまうことが、理解できるようになります。

これ（シエシエと唱える）以外に解決方法はありません。なぜなら、ちょっぴり意地悪な私ですから、この方法以外では解決できないよう、真理と摂理を配したからです。

この解決方法の素晴らしさを、この本の営業マンである私から少しご説明させて頂くと、

- ① 誰も傷付いたり不利益を被る者はなく
- ② すべての者を癒し
- ③ 蟠りを解き
- ④ 心を浄化し
- ⑤ 霊格の向上を促し
- ⑥ ベッドの上で横になっている者でも実践可能で
- ⑦ 予算も掛からず
- ⑧ 短時間（15分）で成就させている
- ⑨ 恒久的解決方法

だからです。

多くの皆様は、現時点では、理解不能かも知れませんが、皆様に協議し、これだと思う別法で心ゆくまで試してください。

やがて手段が尽き、皆様は1,300円の「虹の掛け橋」に必ず戻ってきます。

そう言えば、ある映画スターが言っていましたよ「I'll be back」と。

2 「男尊女卑」は反真理的主義

3 つ目の課題で、これが最終課題です。

それは「虹の掛け橋」に登場する主要人物はマザー・テレサ以外の、五霊（ただしシルバーバーチの性別は不詳でここでは炊飯器として置きます）、バーバネル、迦葉、舍利子、私、は男性であることから「私が男尊女卑主義者ではないか？」と言う疑念です。

この疑念が「虹の掛け橋」の信用を失墜しつづいさせます。

モーゼと釈尊とイエスとマホメットの 4 人は、なぜ男性の形態をとって降誕したのか、その理由は後ほど触れることとし、地上に男性・オスが登場するに至った経緯を説明します。この経緯は女性・メスが登場する場面から語る必要があります。

お断りして置きますが、女性の皆様方には耐え難い文章が続きます。ですが、これに耐え最後まで読んで頂ければ、どなたでも得心して頂けるよう配慮したつもりです。

地上にメスが登場する場面は、動物プランクトンの時代に遡さかのぼります。

この時代は、メスがメスを生む単為生殖たんいせいしよくの世界です。しかし、このような世界では、子孫を未来永劫存続させることには限界があるのです。なぜなら、遺伝子の X 染色体から X 染色体への完全コピーを図ろうとしても、やがて色褪あせ現象が訪れるのと同じ理由で、自ずと完全コピーには限界があるからです。

つまり、水質環境が激変したとき、過酷な環境での染色体の完全コピーが困難になるため、種が途絶える危険が生じるのです。

そこで、水質環境が激変したとき、種の存続を図るため、オスが登場することになります。具体的には、水温が急降下等、環境が激変し

たとき、動物プランクトンのメスがオスを生むようになります。このオスはメスと比較すると、個体の大きさはメスの 1/3 から 1/4 ほどに小さい物ですが、運動能力は 3 から 4 倍ほどあるのです。このオスとメスがチューして、激変した水質環境でも生命を維持できる繁殖能力を持つメスを生み、このメスが同じ繁殖能力を持つメスを生み、激変した環境を乗り越えてゆきます。

これが、オスが地上に登場した経緯です。

このような進化が何度も繰り返され、地上に人類の形態にまで進化した女性と男性が登場する舞台・環境が整えられてきたのです。

このような経緯により、女性と男性の役割分担が自ずと決定した時代があります。

つまり、女性には子孫を未来永劫繁栄させるための繁殖能力が与えられ、この役を第一に選択（母体の安静を最優先）するように求められました。女性は、子孫繁栄のための重要課題を背負っていたのです。

一方、男性は、この繁殖能力（子どもを身^みごもる能力・喜び）が没収され、代わりに運動・活動・労働能力が与えられました。この能力を持った男性により、人類は、激変した環境でも乗り越えるための道筋を見出すことができたと解釈する者がいた訳です。

このため、男性は、社会のあらゆる職種の指導的立場に身を置き、女性と子どもを抱えた家庭・地域・国の生計を営む役を背負うことになった時代がありました。

女性男性とも、人類が未来永劫繁栄してゆくためには、互いに欠かさない存在で、その重要性に甲乙は付けられません。

そこで、皆様は、霊界にいたとき、地上に降誕した際、女性男性いずれの形態をとるのか、銀河霊団全体で協議し、皆様自身の自由意志で決定し、地上に降誕してきたのです。これが実相で皆様が霊界での記憶を取り戻せるほど霊格が向上すれば得心される筈です。（「霊訓」

で語られているように、シルバーバーチは、バーバネルの受精の際、
霊力を行使して男性として誕生させたのです。このように複数の銀河
霊が協力し合えば、性別を操作できるのです。ただし善想念で行うこ
とが絶対条件となるため、性別の決定は銀河霊団全体で協議する必要
があるのです。

ですから、モーゼと釈尊とイエスとマホメットの4人は、なぜ男性
の形態を取って降誕したのか、それは、皆様同様、彼らの自由意志で
決定したのです。ですから、なぜその性を選択したのかは、皆様が霊
界通信可能になった^{あかつき} 暁に、彼らに直接尋ねてください。（なお、銀河
霊体は、性は存在しない、あるいはどちらの形態もとることができる
^{ちようせい} 超性霊体です。）

現在の地上は、女性と男性が登場した最初の舞台・環境である精神
的幼児期とは比較できないほどの成熟期を迎えています。

それに伴い、女性に子孫繁栄の役に専念させると言う束縛を課したり
、男性に労働や生計の営みの役に専念させると言う束縛を課したり
することが、皆様が行使出来る自由意志の範囲を^{こうそく} 拘束することに繋がる
息苦しさを覚え、次第に女性と男性の役割分担の^{かきね} 垣根が取り払われ
てきました。



今後は、今以上に、女性が労働や国家の生計の営みの重要な
担い手となり、男性はイクメン
や看護師さんが^{しょうちょう} 象徴している
ように、活躍の場面をさらに勝
ち取ってゆきます。

このような進化の^{けいりん} 経緯が皆様に
約束されていますので、私が
決して男尊女卑主義者でないこ

とを理解してください。

それに「男尊女卑」は「天は人の上に人を創らず、人の下に人を創らず」の真理に反する反真理的主義で、世の中の平和と調和と秩序を滅茶苦茶にします。

ですから、このような主義者は、次は女の姿となって再生を繰り返して、この主義がいかに悪しき主義かを得心するまで学ぶ人生を何度も送ることになります。

これが、調和と秩序を形成・維持するために、そして本人の霊格向上を促すために、必要な摂理の働き・再生の法則なのです。

他の反真理的主義者や反真理的行為者や反真理的体制構成者・支持者にも同様の摂理・再生の法則が完璧に働きます。

しつこいようですが大切なことなので、掘り下げて説明しますと、現世、健康で、裕福で、勝者としての人生を謳歌^{おう か}し尽くした者は、来世、病弱で、貧しく、敗者の苦しみを味わいながら、「弱者に愛の光を注ぐ社会」を強く望む人生を送ることになります。

理由は前述と同じです。

ですから、勝者の人生を送っている方々は、現世、とことん「弱者に愛の光を注ぐ人生」を歩まれることをお勧めします。

そうすれば、来世も、「弱者に愛の光」を注ぎながら、健康で、裕福な人生を謳歌できます。

反真理的主義者や反真理的行為者や反真理的体制構成者・支持者も現世のうちに軌道修正されることをお勧めします。

そうすれば、同じ来世が待っています。

このようなことから、病気や貧困や負けること（＝挫折など）を学ぶことは大切・必要だと思います。

私も、治療法がない特定疾患を病み、目覚め、人生・考え方を修正し、一生病気を背負って味わう苦しみに匹敵する血と涙の修行を、ネ

イム君の指導を受けながら熟^{こな}して、進化した生命体になれたのです。

視点を変えて語ると、特定疾患を病んでいなかったら、私は生涯、真理と摂理^{じんれい}の働きを学ぶことなく人霊レベルで人生を閉じていたことと思います。であれば、「どちらが幸せな人生と言えるのか？」です。

第 37 章

私に思い残すことはありません

1 人類の未来は人類の自由意志

私 私は人類を、今、置かれている苦境から救い、そして第一霊の靈格にまで導きたいと言う気持ちが 50%で、このまま人類をそっと置いてあげて、私自身はカラオケとコメディ映画とハイキングと旅行等々の放蕩生活^{ほうとう}三昧^{さんまい}の余生を送りたい（つまり人類に干渉や助言をしない＝人類の滅亡を止めることを断念する）気持ちが 50%です。

そこで、私が何者であるのかは、人類にその判断を委ねますので、気が向いたら皆様で「虹の掛け橋」を吟味して頂ければと思います。

2 「完全死」したものがたちが宇宙の礎^{いしづえ}となる

そして、私の救いの業^{わざ}に身を委ねる奇特^{きとく}な方々のみ、時間があつたら、以下を読み進めてくだされば幸いです。

私はこの方々の中で、無償・無上の愛と勇気で、健気^{けなげ}にひたすら「虹の掛け橋」に基づく真理的行為を実践される方々のみ（ですから、傍観^{ぼうかん}者は含まれません）、以下「友（たち）」と呼ばせて頂きます。

友たちが抱え、喫緊に解決すべき課題に関しては概ね解決方法を示したつもりです。そして、この解決方法を選択し行動に移したとき、速やかに解決される祝福すべき光景を目にすることができると確信しています。なぜなら、しつこいようですが、示した方法以外は反真理的方法であるため解決しないよう、真理と摂理を配してきたからです。よって、人類は嫌でも「虹の掛け橋」に戻ることになります。

私は靈界と宇宙を創造したとき、調和と秩序を形成するため 200 は

どの根幹的真理（以下単に「真理」）と、この真理を守りかつ成就させるために自動的で完璧に働く摂理を配しました。「第 1～4 巻」までに 150 ほどの真理を示しました。残りは 50 ほどです。これらについては、「第 5～7 巻」で述べることにします。7 巻すべて揃ったとき、創造したときの設計図・真理の全容を友たちは目にできます。つまり、どのようにして霊界と宇宙を創造したのか、友たちに明らかにし、その創造力と言う霊力を友たち全員に伝授するつもりです。

が、1 点私にも現時点では臍^{おぼろ}げで確信が持てないことがあります。それは、どのようにして己の命を創造したのかと言うことです。霊界と宇宙の全生命を創造したのは私ですから、友たちが自身の命を創造する場面は未来永劫に亘って登場しませんので、友たちにこの問題は関わりないことですが、私にとってはこの地上世界で明らかにして置かないといけない問題で、そうでないと自信を持って友たちに霊界と宇宙の創造力を伝授できないのと、霊界に戻れば記憶を取り戻しますのでこの問題を解決できますが、この創造方法を地上に送信しようとしても受信できる霊体が存在しないのです。それで、地上世界で明らかにして置かないといけない問題と言った訳です。

また、この問題を解くと言うことはイコール私自身が始原なる第一霊であるかどうか確認しなければならない行為です。

そこで、私は禁断の言葉「私が始原なる第一霊である」と宣言します。

もし私の他に始原なる第一霊が存在した場合、この方の逆鱗に触れ「第 4 巻」のこの箇所が私以外の者の目に（最初に目にするのは出版関係者）触れた瞬間に私は「完全死」します。同時に霊界も宇宙もそこに存在するすべて（霊体・物質・概念（想念））が「完全死」します。したがってこの者がこの箇所を目にして後も生命を維持していたとき、

私は始原なる第一霊であると言う確信のもと臃げだった記憶も確信に変わり、自身も含めすべてのものの創造方法を友たちに語ることができます。

と同時に、このことから、友たちが第一霊として降誕したとき、私の猿真似すらできないということになります。友たちが公の場でこれを語った瞬間に私の逆鱗に触れ「完全死」するからです。

このことは何を意味するのか、それは、友たちは私と同一内容の「虹の掛け橋」を書くことができないということです。これはすべてのものを救うことができる唯一の方法（「虹の掛け橋」の実践）を行使できないことになり、この程度の霊力で友たちが宇宙を創造しても、そこに存在するものたちを救えないとしたら、友たちが創造した宇宙に住みたいと思う霊体は存在しませんので、友たちの宇宙の創造行為に意味がないことになります。

では、友たちはどうすれば、すべてのものを救える霊力を身につけることができるのか。

私の周りにはネイムの宇宙霊である大霊が 1000 億、銀河霊（友たちはこの世界）が 1000 億の 2 乗、恒星霊が 1000 億の 3 乗、惑星霊が 1000 億の 4 乗、人霊（人類の非友たち（傍観者を含む）はこの世界）が 1000 億の 5 乗、無数の動物・植物・物質・想念たちがおります。

（ここで、非友たちとはどう言う存在か説明して置きます。本来は銀河霊です。が、私の救いの業に身を委ねることを拒否 or 傍観した行為の報いとして摂理の働きにより、愛と知恵と勇気と希望の霊力向上が停滞し、霊格が 1000 億の 3 乗分の 1 の人霊レベルに留まってしまった者たちです。こうなると私の語ることが理解できないばかりか、かえって反発を覚え、もしこのような者が過半数を占める状況で記者会見を開こうものなら収拾困難な状況になります。でも非友たちでも、n 代目の第一霊の救いの業に身を委ねる心の紋様が変わり、そのとき

の「虹の掛け橋」に基づいた実践を真摯に開始すれば、再び進化の階^{かいてい}梯を登ってゆくことができます。大切なことなので、言葉を換えて語るならば、すべての霊体に（波長の）合った第一霊がいずれ必ず現れますので、非友たちは、辛抱^{しんぼう}強く待って、その第一霊に導いてもらえば良いと考えます。それと、友たちは非友たちを、非友たちは友たちと非友たちを愛してくださることを私は願っています）。

私の次に霊界と宇宙を創造する者は大霊たちですが、この者たちであつても私の猿真似すらできませんから、1000 億の大霊たちが協力して初めて私と同等の霊力を発揮できる状況を作り上げることができます（だから、私の霊力の実相は大霊の 1000 億倍以上で、大霊は銀河霊の 1000 億倍以上の霊力です）ので、大霊たち全員で協力し合って霊界と宇宙を創造し、そこに存在するものたちを救ってゆくことになります。その次は、1000 億の 2 乗の銀河霊たちが協力し合って霊界と宇宙を創造し、そこに存在するものたちを救ってゆくことになります。

具体的方法等詳細については「第 6 巻」以降で述べることにしますが、ここでは、私が創造した霊界と宇宙の終焉^{しゅうえん}と、大霊たちがどのようにして霊界と宇宙を創造するのか、その概略^{しる}を記します。

私が救うべきものたち（大霊から概念的世界のものたち）がすべて第一霊の霊格レベルに到達したとき（具体的には地上が成就点を迎え、それから 100 億年後 絶対時計が 10,000,002,116 年 11 月 4 日 13 時 11 分 17 秒を刻んだとき）摂理の働きにより、修行道場として必要のない霊界と宇宙は消滅してゆき、やがて終焉を迎えます。私が放射している愛の波長は第一霊以上の霊格霊体のものしか受け取れなくなる精妙な波長に変わります。このためこれより未熟な霊体である大霊以下のものたちは私から放射される愛を受け取ることができず活動が停止・完全死し、膨大な無なる空間を形成してゆきます。

これを聞いて皆様は、「何と残酷な」と、思うかも知れませんが、こ

れには次の 2 つの理由があるのです。

❶ もし大霊界以下の霊界と物質界が残っていると、第一霊格に到達した友たちは、このものたちをすべて第一霊レベルに救うまで決して第一霊界に入ろうとしない究極的な愛を行使し続けるため、私が友たちを第一霊界に導くと言う計画がいつになっても成就しないため、やむを得ず大霊界以下の世界を消滅させることによって、皆様に究極的な愛の行使を断念させるためです。

❷ それと、大霊界以下と物質界である宇宙の終焉は、次の第一霊たちが霊界と宇宙を創造する際に必要な過程・^{みなもと}源 なのです。

この理由は後ほど触れることとし、ここでは宇宙を創造する際に必要となる知識である物質の存在する世界と存在しない無なる空間についてご説明します。

人体は有機物と、血液のように無機物と有機物の結合体(^{さくたい}錯体)と、ミネラル等の無機物から構成されています。これらはすべて原子から構成されています。原子は原子核と電子から構成されています。原子核と電子の大きさレベルで捉えたと、原子核と電子の距離はとても大きい・広いのです。つまり、原子は物質の存在する世界と、これよりも大きな無なる空間から構成されているスカスカな状態であると言えます。原子核は素粒子から構成され、素粒子間もとても広いと観るべきですから、原子核もスカスカ、元に戻って物質も植物も動物も人も惑星も恒星も銀河も宇宙もスカスカなのです。

何が言いたいかと言うと、物質で完全に満ちた状態・世界も、無・真空の状態・世界も、 $1\mu\text{m}^3$ の微小な世界であっても、人類が理解している物理化学的法則を駆使したところで創れないと言うことです。仮に創れたとすれば、これらは^{とてつ}途轍もなく不安定な状態で、物質で満ちた世界は無なる空間・世界を生み出そうとする力が極限の状態、無の世界は少しでも物質を生み出そうとする力が極限の状態なのです。

大霊たちはこの力を利用して宇宙を創造することになります。

具体的には、摂理の働きにより、大霊以下のものたちが「完全死」して形成された無なる空間は、第一霊の目から観れば、大霊から物質、そして概念・想念たちの潜在的要素で満ちた無なる空間です。ここに後の第一霊たちは私から伝授された真理と言う設計図を配しながら「完全死」したものたちを何としても救いたいと言う究極的で膨大な愛のエネルギーを注いでゆきます。すると「完全死」していたものたちは息を吹き返し・復活・霊体を取り戻して無なる空間を物質で、そして霊界を霊体と想念で満たしながら押し広げてゆきます。これが、人類が認識しているビックバーンの現象です。

その後・・・・・・を経て、現在のような霊界と宇宙の姿に至ります。(詳細は「第6巻」以降です)。

ただし、友たちに知って置いて頂きたい知識として、息を吹き返したものは、第一霊・創造主に深く感謝し、創造主が創り上げようとする平和で調和と秩序のとれた世界の創造のために身命^{しんめい}を捧げながら働きます。これが摂理の働きの実相です。また、創造主に嫌悪感^{けんおかん}を抱かれてしまった者は、この摂理の働きにより、反真理的行為者・平和と調和と秩序を乱す者として、他のものたちから、お尻ぺんぺんされることになります。

3 「完全無」の状態から生み出す方法が「白金律」

しかし、私が霊界と宇宙を創造した方法は、これとは異なります。なぜなら、私の創造時には「完全死」したもので形成された無なる空間、つまり大霊から物質、そして想念たちの潜在的要素で満ちた無なる空間、ではなく「完全無」の世界だったからです。私の場合はこの世界に、己の命と霊界と物質界の宇宙を創造したのです。

今、この方法を友たちに伝授することはできません。なぜなら「完全無」の世界で己の命を創造できる方法を友たちに伝授してしまつては、友たちが私の逆鱗に触れ「完全死」しても「自己復活」の技（業）^{わざ}^{わざ}を伝授することになり「完全死」と言うペナルティーが意味を持たなくなり、これでは「虹の掛け橋」を広めることに友たちの協力が得られず世界に平和も調和も秩序も永遠に訪れないからです。

しかし、この創造方法を永久に教えないと宣言すると「あなた本当に始原なる第一霊なの？」と言う疑問を持たれ「虹の掛け橋」の信用を失墜させることになり私の本意ではありませんので、この創造方法のヒントを「第 1～4 巻」の中の数ヵ所に分けて示しました。ですから、皆様の中で私から紫金律まで伝授され、第一霊格に到達したと自覚し、かつこの創造方法を他言しないと誓った方は、私に『「完全無」の世界で己の命と霊界と物質界の宇宙の創造方法を教えてください』と言う想念を放射してください。この思いが確かであった場合、第一霊レベルに到達した者のみが受信できる波長で『「虹の掛け橋」の、こここここと・・・を観てください。これがヒントで、これらの文章から・・・のようにして創造しました』と映像と理解できる言葉で伝授します。この創造方法が「白金律」です。

ここで「白金律」＝『「完全無」の世界で己の命と霊界と物質界の宇宙の創造方法』の全容の 50%を書き記すことにします。理由は「嘘つき呼ばわれされたくない」と言う私の見栄です。

初めは「完全無」の状態・世界でした。この状態は自ずと 2 つの状態へ向かう分岐点（①と②）でもあるのです。それは、①「完全無」の状態が継続するのか、②変化するのか。この分岐点は結論から言うと共に②に帰着します。それはなぜか？ 仮に①の状態であったと仮定します。すると、①の状態を友たちが認識できるように表現すると

「ある期間、無と認識されている空間に変化は観られなかった」となります。これは「完全無」の状態に「期間＝時間」と「空間」と言う概念が生まれた。つまり②の変化が観られたことになり、分岐点は存在せず、すべてのもの・現象は常に変化しながらより調和と秩序が齎される世界を目指す・向かうと言う「無常」＝「真理」と「自己向上欲」＝「摂理」が働いた瞬間で「私」イコール「宇宙」が誕生した瞬間でもあります。



カラオケのマイク
shutterstock_448474732

「私」の始原の実相を「頭があり、腕があり、胴体があり、足がある、カラオケのマイクを離さない生命体」と想像しては、このような「私」を^{なんびと}何人もいきなり創造することはできません。

では「私」の始原なる実相は何か？

それは「時間」と「空間」と言う概念＝「言葉」と「真理」と「摂理」です。「私」＝「宇宙」の誕生、天地創造と言っても良いですが、これは旧約聖書の天地創造の内容ではなく、新約聖書の「ヨハネによる福音書」の「初めに言葉があった。^{うんぬん}云々・・・以下省略」が正しく、かつ『「虹の掛け橋 第1～4巻」に「白金律」のヒントを書きました』と語ったように「第25章 2 救いの御業 その2」の「初めに言葉があった。云々・・・以下省略」のとおりです。ね、私、嘘つきじゃないでしょう。

では「言葉」にどのようにして命を吹き込んだのか、その方法は？＝「白金律」ですので、しつこいようですが、今、これらの質問に答えることは、友たちに「完全無」の世界で「自己復活」の技（業）を

伝授することで、私の逆鱗に触れても「完全死」しないことになり、宇宙の調和と秩序の崩壊を招く危険があります。でも 100 年以内には、想念の世界で伝授することを約束しますので、今は「白金律」の全容の 50% の知識でご了解ください。

4 質問を受け付ける E-メールアドレス

友たちからは、E-メール(アドレス: *****.*** ただし、公案 2 の答えを「第 5 巻」の冒頭で述べる予定ですので、このアドレスの使用期限は「第 5 巻」の出版予定日の 2017 年 7 月 18 日までとさせていただきます。なお、この日にちは多少前後する場合がございますのでご了承ください) による質問を受け付けることにします。

が、すべての友たちから質問を受けるのは、これが殺到した場合、この企画そのものがお釈迦^{しゃか}になってしまいますので、質問者を釈尊^{しよくそん}(五霊)レベルの霊格者に絞^{しぼ}らせて頂きます。では、どうやって? 公案 1 の正解者のみが公案 2 の答えを添えて、質問を最大 3 問まで、できれば日本語で、そして、質問のすべてがごじゃっぺに成らぬよう、品格を保つために 3 問のうち 1 問は必ず、①神仏の教え②真理と摂理の働き③人類が克服すべき課題の解決方法、のいずれかを含んでいるという条件付きでお願いします。

ただし、青金律から白金律に関する直接的な質問は生々しいので、お答えできません。ご了解ください。これらの律については適宜^{てきぎ}語りますので私のペースで語ることをご了解ください。

それと質問の回答は基本的に「第 5 巻」以降、あるいは Q&A 集(仮称)のような本にて、とさせていただきます。

では公案 1 です。

(友たちには、解答の制限時間はありません。公案 2 も同じ。ただし、

解答のチャレンジは1回のみです。つまり解答を読んでしまった方は、再度はない「ノーサイド」＝「試合終了」ということでご了解ください。

天才たちには幾つかの共通点があります。そこで第一霊的（無限角形的）視点に立って最も欠かせない共通点を1つ、理由を添えて述べてください。

なお、この内容で霊界の（1000億の2乗の）銀河霊たちにお出ししたところ、五霊も含めて全員不正解でした（このとき、霊界での制限時間は3ヵ月とさせて頂きました）ので、ヒントを差しあげます。このヒントによって霊界の銀河霊たちの正解者は五霊、バーバネル、迦葉、マザー・テレサ、舍利子、ノア、ペトロ、パウロ、ナポレオン、ジャンヌ・ダルク、ニュートン（イサク）、アインシュタイン、阿難、目連、達磨、南泉、趙州、空海、リンカーン（アブラハム）、ガンジーの24人で、正解までの所要時間は最長者で30日間でした。残りの銀河霊たちはヒントを出してから6ヵ月経過しますが25人目の正解者は今のところ（2016年11月3日）、現れていません。なので、解答時間を打ち切り、今（2016年11月4日）では、霊界の銀河霊たちには答えを教え、彼らには公案2に取り組んでもらっています。

ではヒントです。

「第27章 1 出入り禁止」に公案1の答えに繋がる重要なキーワードを盛り込みました。このキーワードは「白金律」に繋がっているばかりでなく「白金律」のヒントを「第1～4巻」までの文中から探し出す訓練にもなっています。

公案1の答えがわかった方は、以下を読み進めてください。

では解答をお話しします。

「第 27 章 1 出入り禁止」の文中に盛り込んだ、ヒントになる重要なキーワードは「お得意様だからこそ出入り禁止になるのです」と言う文言です。

このキーワードから導き出されるものは「ある事象の構成要素とは全く無縁と思える要素に目を向け、この要素を取り込むことによって思考力と創造力の可能性は無限に広がる」と言う真理です。

これを掘り下げて解説しますと「出入り禁止になるお客」と全く無縁と思える「お得意様」に目を向け、この要素を取り込むことによって出入り禁止者の枠・思考範囲が可能な限り広がります。かつ「お得意様だからこそ出入り禁止になるのです」と言う文言の可否を慎重に吟味しますと、この内容は何人も覆すことができない真実であることに気付きます。まさに「目から鱗^{うろこ}」と言うものです。

公案 1 はこの応用問題です。

つまり天才と無縁と思える要素とは？ 「努力家」です。この要素を取り込み、かつ内容を吟味して誰もが認める真実であった場合、これが答えとなります。

ですから、公案 1 の答えは、

「天才とは誰もが認めるほどの大努力家」です。

「白金律」を理解するためには、この真理を深く理解する必要があります。つまり「すべての材料が揃^{そろ}っている状態からあるものを創造することはとても簡単なこと」です。このことと公案 1 が導く答えを踏まえると、簡単に創造できる条件と全く無縁と思える『「材料が全くない状態、つまり「完全無」の状態からあるものを創造することは、人類が考えるほど困難なことではなく意外に簡単なのだ』という事象

を受け入れなければ、あるいはこのことが真理の 1 つであると確信できるほどの霊力者にならなければ『「完全無」の状態から「己の命」も「霊界」も「宇宙」も永久に友たちは創造できない（「白金律」は理解できない）のです』。

では、公案 1 の正解者のみが、公案 2 の答えを添えて、私に質問可能と言うことをご了解ください（これは不正な質問者を排除するため、公案 1 の正解者ほどの霊力者のみが、当該公案の答えを構成する重要なキーワードの 3 つのうち、1 つでも含まれていた場合のみ、私は質問に目を通します）。

公案 2 です。

A さんが定期健康診断で体に腫瘍^{しゅよう}があったため、B 病院の C 先生の精密検査を受けたところ、腫瘍は「癌細胞である」と言う診断結果でした。そこで、A さんは自宅に帰り、診断結果を正直に家族に報告しますが、報告内容は、聞いた家族「妻（夫）、両親、子ども、兄弟姉妹、ペットなど」が可能な限り不安を払拭^{ふっしょく}できるよう、配慮された内容でした。そこで友たちの皆様が A さんの立場になったと仮定して、家族に診断結果を報告する場合どのように報告しますか？ この報告内容を無限角形的視点でお答えください。ただし、家族は「虹の掛け橋」第 1～4 巻を読んでいるお得意様で、かつ奇特定の友たち（＝実践者）とします。

私が友たちに「第 4 巻」で語るべきことは語り尽くした感があり、すべて私が描いた計画のとおり推移しています。ですから、仮に「第 5 巻」以降、地上時代に友たちに示せなくとも「第 4 巻」までで、友たちは「白金律」を 100 年以内に、自力で理解できると思いますので、

私に思い残すことはありません。では、皆様の幸せを念じつつ「第 4 巻」の筆を止めます。

2020 年 3 月 30 日

(著者) 宇都宮 大地